ハンドボール「第44号目次」

昭和42年7月号

表紙写真　関東学生春季リーグ戦立大対芝工大戦から

私のことば

全日本学連　運営面の拡充に努力

関東学連委員長　多胡恒治（日体大4年）

昭和13年にうぶ声をあげた関東学生連盟が、今年30周年を迎えたのをはじめ、全日本学生関係でも学生王座が20回目、インター・カレッヂが10回目を迎える。

先輩の話によれば、昭和13年関東学連が発足した時の加盟校はわずか5校にすぎず、しかも、それ以外に全国で活動している大学ハンドボール部はなかったというのだから、現在、全国七つの地区でリーグ戦が開かれ、百校近い加盟校を持つまでになった学生界の発展はまことにめざましいといえる。

この間の先輩の努力が改めて大きなものであったことを知らされこの球史をひきついだ者としてわれわれもなおいっそう力をつくさなければならないと思っている。

現在、学生界が当面している課題のうち特に大きな問題は、〃加盟校の増加〃と〃財源の確保〃であろう。

数字のうえでは、創立当初の20倍の加盟校を得たといっても、他競技に比べて、もちろん、日本ハンドボール界においても、その占める割合は低い。

特に、全国でも十校に満たぬ女子チームの増加は急務で、なんらかの具体策をたてなければならぬ時期に来ている。

財源問題については、一人学生界のみではなく、ハンドボール界全般の問題点ではあるが、特に、これから大きな理想をかかげて進もうとするわれわれにとって、常に、その抱負を坐折させるのは〃財源〃の乏しさである。

財力が豊かであれば懸案である地方校（地方学連）のレベル向上についても中央から積極的な手を打つことができるであろうし、また国際試合の自主運営などトップレベルの充実にもいくつかの理想を実現させることができるのだ。

理想といえば、専用グランドをもたぬ悩みも、各学連共通のものである。

これからのスポーツはやはり一般の関心と支持を得なければ大きな伸びは期待できぬのではないか。

その意味で、専用グランドをもたず、点々と会場を変えたり、ウイークデーに日程を組まなければならないのはマイナスである。会場の固定化と確保を本部協会の首脳陣のかたがたにぜひお願いしたいと思う。

幸にして、現在日本ハンドボール界のトップチームは学生界の代表によってその半数以上を占めている。

永年の努力と選手たちの情熱でこれからも学生界が日本ハンドボール界の技術的な面でのリーダーの位置を守りつづけることは疑いないことであり、来るべきミュンヘンオリンピックの代表選手の大半も学生界のトッププレイヤーによって占められることであろう。

そした技術面の洋々たる前途におとらぬ運営面の拡充を企ることが、今後の学連に課せられた最大のテーマだと思う。

41年度決算、42年度予算案呈示さる

六月一八日全国理事会開く

六月一八日、日本ハンドボール協会は全国理事会を日本体育協会内で開催した。

この理事会には、各県理事長もオブザーバーとして出席した。

午前十時に開会され、途中昼食をはさみ、午後五時まで、熱心な討議がなされた。

まず本年五月三一日現在の登録チーム数が報告された。六県ほど結果のきていない県があるが、昨年とほぼ同数に達っしているとの報告であった。

ついで、全日本総合ハンドボール選手権大会に協会推せんとして出場する五チームについて、別紙のように決定したと報告がなされた。

優秀チームも別紙のごとく決定した旨、担当部長よりの報告があった。

ついで議案審議に入り、第10回全日本学生ハンドボール選手権大会の日程を7月11日(火)〜7月15日(土)までの五日間に変更することを全会一致で了承し、教職員大会の日程を8月14日(月)〜8月16日(水)の三日間にすることも決定した。

協会役員について、評議員、理事に出したアンケートの中間報告があり、この問題はなお検討することとした。

西ドイツの男女チームを今秋招待する件について、現在までの状況の報告が担当常務理事からあり提出された日程表について質議がなされた。

ついで、今回の理事会の一番大きな議案である昭和41年度のハンドボール協会の決算と昭和42年度予算の審議に入った。

決算は担当常務理事浜田氏の手で整理がすこぶる良くつけられており、未収金もどこどこいくらという形できわめて明快に作られていた。

別紙に掲げる通り、総合収支では一千八百万をこえる非常に大型の決算になっている。

一般会計では、これも一千万をこえる大型の決算になっている。

機関誌会計は六十万余の黒字を出してはいるが、なお多くの未収金をかかえ、これをどう収納していくかが大きな問題となってこよう。

国際会計は昨年は中国の来日と世界選手権の参加と二つの大きな課題を無事消化している。

オリンピック基金は例年同様、

昭和41年度日本ハンドボール協会 総合収支計算書

(昭和41年4月1日から 昭和42年3月31日まで)

支出の部	
科目	金額
一般会計	10,889,530円
機関誌会計	2,616,241
国際競技会計	3,777,707
オリンピック基金会計	0
小計	17,283,478
当期収支差額	1,451,232
〔一般会計	327,012〕
〔機関誌会計	521,627〕
〔国際競技会計	484,293〕
〔オリンピック基金会計	118,300〕
合計	18,734,710

収入の部	
科目	金額
一般会計	11,216,542円
機関誌会計	3,137,868
国際競技会計	4,262,000
オリンピック基金会計	118,300
合計	18,734,710

昭和41年度日本ハンドボール協会 一般会計収支計算書

(昭和41年4月1日から 昭和42年3月31日まで)

支出の部	
科目	金額
会議費	200,883円
渉外費	394,289
旅費・交通費	203,190
通信費	384,046
分担金	83,836
印刷製本費	219,646
大会費	906,870
消耗品費	54,069
備品費	36,112
人件費	360,640
貸借費	480,000
補助費	300,000
強化費	1,200,000
雑費	217,269
スポーツ少年団費	916,880
国際競技会計へ繰入	1,600,000
世界選手権大会補助金	3,331,800
小計	10,889,530
当期収支差額	327,012
合計	11,216,542

収入の部	
科目	金額
加盟金	420,000円
登録金	1,310,100
競技規則書	210,500
検定料	1,430,000
審査料	169,800
補助金	2,500,000
振興金	600,000
大会参加料	343,000
国体旅費	510,120
雑収入	391,222
世界選手権大会補助金	3,331,800
合計	11,216,542

昭和41年度日本ハンドボール協会 機関誌会計収支計算書

(昭和41年4月1日から 昭和42年3月31日まで)

支出の部	
科目	金額
印刷費	1,642,196
通信費	139,245
交通費	10,470
編集費	494,500
取材費	51,300
消耗品費	6,640
人件費	270,040
賃金	1,500
雑費	350
小計	2,616,241
当期収支差額	521,627
合計	3,137,868

収入の部	
科目	金額
購読料	1,937,868
(内未収金)	(188,200)
広告料	1,200,000
(内未収金)	(500,000)
合計	3,137,868

昭和41年度日本ハンドボール協会
国際競技会計収支計算書

(昭和41年4月1日から
昭和42年3月31日まで)

支出の部	
科目	金額
日・中親善大会	2,177,707円
世界選手権大会	1,600,000
小計	3,777,707
当期収支差額	484,293
合計	4,262,000
収入の部	
科目	金額
一般会計から繰入	1,600,000円
日・中親善大会	2,662,000
合計	4,262,000

一一万円余をそのまま積みたて、来るべきものに備えるという形をとっている。

予算案は一般会計ならびに機関誌会計の二つが提出された。これは各部提出の予算原案を予算委員会で調整したものであり、やはり一千万円を越えるものが提出されているが、実行予算案は収入六七九万、支出七七九万となっている。

予算に盛られた新しいものは、地方から上京する評議員、理事、専門委員に旅費を出すことになり、それが内容に入ったことと、日本協会が主催する各大会に補助金が支出されたことである。

この大会に対する補助金は全日本高校選手権に十五万円、全日本学生選手権に十万円、全日本実業団選手権に十万円、全日本総合選手権に十万円、全日本選抜選手権に十万円、全日本教職員選手権に五万円となっている。

機関誌会計は収支均衡のとれた形はとっているが、広告料収入の不安定な要素がかなりあり、協力をあおぎたいとの要望があった。本理事会の主な内容はすべて別記してあるので、それを参照されたい。専門委員会の審議もなされたが、それも別記してある。

昭和42年度機関誌会計予算(案)

支出の部	
印刷製本費(10回)	1,650,000
編集・取材費	350,000
人件費	320,000
1名 18,000×16	
通勤費1,170×12	
アルバイト800×22	
通信費(15,000×10)	150,000
消耗品費	20,000
印刷費	60,000
(封筒,礼状葉書等)	
旅費交通費	20,000
予備費	30,000
後期繰越金	683,374
計	3,283,374
収入の部	
購読料	1,900,000
広告料	700,000
前期繰越金	683,374
計	3,283,374

昭和42年度一般会計予算(案)

収入	
前期繰越金	6,518,816
オリンピック基金	110,000
加盟金	410,000
登録金	1,300,000
大会参加料	350,000
検定料	1,200,000
審査料	150,000
ルールブック	50,000
補助金	3,220,000
計	(6,790,000) 13,308,816
支出(予算)	
役員費	300,000
総務費	2,200,000
財務費	77,000
審判費	400,000
渉外費	262,000
技術費	1,300,000
普及費	650,000
小計	5,189,000
各大会補助金	600,000
国体補助金	300,000
オリンピック基金	110,000
予備費	1,250,000
大会参加料	350,000
小計	2,610,000
後期繰越金	5,509,816
総計	13,308,816

9月9日又は10日に第1戦
西ドイツ、全国で22試合

本部協会では、6月18日の全国理事会で、今秋、西ドイツ男女チームの来日を確認、その日程などについて協議したが、9月9日(土)又は10日(日)に関東地区で第1戦、そのあと全国各地で約22試合(現在の予定では男子12、女子10試合)を行うことに、意見の一致をみた。

対戦チームや詳しい日程はなお検討が加えられるが、最終戦(9月27日の予定)は東京で、男女ナショナル・チームが対戦することにほぼ確定している。

なお、来日チームの陣容はまだ知らされていないが、女子の外口チームと男女同時に外口チームが来日するのは史上初めてのことでその成果がおおいに期待されている。

村田・稲石氏、技術委員に

新年度専門委員決まる

新年度の専門委員会のメンバーは、4月なかば以後の常務理事会で再三協議を行った結果、別表のとおり決まった。

各専門委員は、担当常務理事を部長として、その推せんで決定されたが、球界再編成ムードを反映してか、かなり大巾な変動がみられる。

【解説】発表されたスタッフをみると技術委員会は、前年度（40・41年度）のメンバーから中沢、佐野の二氏が残留しただけで一新。今春の世界選手権代表団監督の村田、同コーチ稲石氏が加わったのが注目される。

また普及委員会はチーフ（部長）が的場氏から徳永氏に変わり、異色とも思えるメンバーを並べたのはおもしろい。一家言もつ人たちの集りだけに、どのような手腕が発揮されるか期待してよい。

各パートとも順当な人選といえるが、問題点がまったくないとはいえない。

特に、来年の女子世界選手権（モスクワ）に日本の出場が内定していながら、技術委員会に、近藤氏（東京重機監督）以外女子実業団の指導者たちの名前が見えない。

ナショナルチームとコーチングスタッフの早期決定の重要性は各所でいわれていることだが、それでも決断できないところは、まだまだ球界に〝おとな〟が少いということだろうか。ブロック選出委員を加えて最終的にはどのような形になるか。注目される。

なお未決定の三パートは近く人選されるが、少年団委員会は普及委員会に合体されるという案も聞こえている。（S）

女子実業団に新チーム

トップ・レベルを誇る女子実業団球界に今シーズンから〝ほていや〟（長野）、とブラザー工業（愛知）の二チームが参加する。復活のレナウン（東京）、本格的活動にはいる宗形製作所（大阪）とともにに上位陣に対してどのような試合ぶりをみせるか注目されよう。二チームの陣容は次のとおり。

【ほていや】土屋、山崎（以上上田城南）、北沢、飯島（以上蓼科）田中（小諸）小山（北佐久農）宮原（丸子実）秋山（梁谷丘）柳沢（朝月）

【ブラザー工業】小野、近藤、富田、本多（以上名古屋女商）梅村、浅井、平松（以上横須賀）井上、堀田（以上高蔵女商）、家田（稲沢）

専門委員会名簿（昭和42・43年度）

〜本部指定委員のみ〜

▷審判審査委（9名）

若崎重富　安藤純光
山田　計　入江暢一
薬田八郎　藤田信義
島田新太郎　箱崎敬吉
稲石三二

▷規則研究委（6名）

安藤純光　藤本　強
佐野和夫　岡前義春
藤原　侑　大塚文雄

▷普及委（6名）

徳永睦繁　清水　正
高橋健夫　宇津野年一
石井喜八　津島達郎

▷技術委（用具）（10名）

中沢重夫　村田　弘
勝　繁夫　稲石三二
北川　浩　高橋英次
細井　操　渡辺慶寿
佐野和夫　近藤金博

▷懲罰委（アマ），少年団委　規程委（登録）は未定

▷編集委は，本誌32頁編集後記参照

（名簿は順不同）

41年度優秀チーム決まる

決定のおくれていた「昭和41年度優秀チーム」（男6、女5）はこのほど次のように決定、6月18日の全国理事会で承認のあと発表された。○内は表彰回数

昭和41年度優秀チーム

▷男子

全立教大（東京）③
芝浦工大（東京）④
大崎電気（埼玉）④
大阪イーグルス（大阪）②
立教大（東京）②
同志社大（京都）③

▷女子

大崎電気（埼玉）④
田村紡（三重）③
大洋デパート（熊本）④
日体大（東京）②
愛知紡（愛知）④

7月末に「全日本（ナショナルチーム）」を発表
ジュニアの編成も考慮

多年にわたり球界の懸案であった男・女ナショナルチームの編成案がこのほどようやく具体化、トップレベル強化に一貫した構想が建てられる見通しがつき、その成果が注目されている。

×　――　×

本部協会技術委員会は5月20日東京で新メンバーによる初の会合をひらき、主に、今後の「全日本（ナショナル）チーム」の編成と強化について協議した。

この会合に出席したのは中沢技術部担当常務理事をはじめ村田、北川、細井、稲石、勝、佐野、高橋、渡辺慶の各技術委員でまず重点方針として「ナショナルチームの強化」「世界選手権・オリンピック対策」「指導者の向上」の三点を決めた。

注目のナショナルチームについては、GK4名、FP16名ていどの編成で、原則として「前年度年間を通じての成績を参考とし、各年度初頭に発表、そのシーズン途中で優秀な選手が出た場合は追加する」こととなった。

ただし、42年度ナショナルチームについては、すでに新シーズンに入り3ヶ月近くを経過しているため、41年度の大会参加選手と7月11日からの第10回全日本学生選手権を参考にして、7月末日までに編成する。また、恒例の41年度優秀選手の発表と表彰は今年はとりやめることもきめた（注・41年度高校優秀選手は2月に発表ずみ＝本誌42参照）

なお、7月末に発表されるナショナルチームのうち女子は、来年11月モスクワで開かれる世界選手権の第一次候補となるわけで、技術委としては、今秋来日する西ドイツ女子に対戦させ、そのあと年末から年頭にかけて強化合宿（詳細未定）を行いたい意向である。同大会に臨むコーチング・スタッフの人選は、できるだけ、早い時期に決めることを申しあわせたにとどまった。

高校男女によるジュニアの強化については「ジュニア・ナショナル（仮称）」を編成して、ナショナル・チームと同時に合宿を行う方針を研究して努力することになった。

ナショナル・チームの具体化で既存の年度優秀選手との関係が新たな問題となるが、表彰をベスト・セブンにしぼろうという意見が強い。

これまでにも再三ナショナルチーム編成の意見が出されながら掛け声のみにおわつた斯界が一九七二年のミュンヘン・オリンピックという大目標を前に、はじめてその強化策の一端が具体化されたことは前進であり、成功を願ってやまない。

中沢常務理事の話「ナショナル・チーム編成は多年の宿願であり前途はかならずしも平たんではないがぜひとも軌道にのせたい。選手の選考は、技術委と本部協会競技関係役員からそれぞれ5名ていどの委員を出してあたりたい。また、遠征役員を早めに決めて、それらの人に加わってもらいたいとも考えている。』

全日本総合、推せんチーム決まる

8月22日から福井県高浜町で開かれる第19回全日本総合選手権大会に出場する男子32チームのうち、日本協会、全日本学連、全日本実連推せんの18チームがこのほど次のように決まり発表された。なお各ブロック代表（11チーム）と地元（福井）代表（2チーム）は7月10日までに決められる。組合せ抽せんは7月25日。

▽日本協会推せん（5チーム）

- 全立教大（東京）
- 芝浦工大（東京）
- 大崎電気（埼玉）
- 大阪イーグルス（大阪）
- 同志社大（京都）

▽全日本学連推せん（9チーム）

- 日体大（関東・東京）
- 東京教大（関東・東京）
- 中大（関東・東京）
- 早大（関東・東京）
- 関大（関西・大阪）
- 大阪経大（関西・大阪）
- 甲南大（関西・兵庫）
- 東北大（東北・宮城）

このほかに東海学連から1校が推せんされる。

▽全日本実連推せん（4チーム）

- 住友化学菊本（愛媛）
- 宗形製作所（大阪）
- 常盤工業（岐阜）
- 本田技研（三重）

インター・ハイ　各地の代表つぎつぎと決る

8月2日から和歌山県で開かれる第18回全日本高校選手権大会の各県予選は5月上旬から全国各地で行われているが、鳥取県代表を皮切りにぞくぞくと晴れの代表校が決まっている。

男子注目の激戦地東京は神代、中大附属、愛知は桜台、名城大附属が勝ち名のりをあげた。

なお、前年度優勝の男子・明星学苑高（東京）、女子・秋田和洋女高（秋田）は推せん出場する。

組合せ抽せんは7月7日和歌山県庁で行われる。（各地の詳報と大会の予想は次号）

早くも国体予選

10月22日から浦和市（埼玉）で開かれる今年の国体予戦のトップを切ってこのほど名古屋で、愛知県一般女子リーグの第1戦愛知紡ーブラザー工業の試合が行われた。進境著しいブラザーが前半5ー4とリードしたが、愛知紡は後半地力を発揮、結局18ー9で勝った。

また茨城県では6月25日にすでに一般男子の予選を終了、原子力研究所が関東予選への出場権を得た。

同志社大、地力を発揮（4連勝 12回目）

攻撃力に課題のこす関大

2部 桃山学 3部 立命館

関西学生春季リーグ後記

○…前号既報のとおり、春の関西学生リーグは1部（6校）が同志社大、2部（6校）は桃山学院大、32年秋以来19シーズンぶりに復活の3部は和歌山大、大阪外語大の新参加を得て7校で争われた結果立命館大がそれぞれ勝って5月28日、7日間にわたる幕を閉じた。

○…1部では4月の西日本学生で優勝した関大と、雪じょくを期す同大の首位争いという予想どおりの展開で最終日（23日・京都市体）4勝同志で対決。同大が前半のリードをうまく活かして優勝をとげた。

同大は1試合ごとに地力を発揮、攻防両面のコンビネーションもよく整調されて危気ない試合ぶりだった。

2位に甘んじた関大は総失点数では同大よりもよい記録を残していただけに攻撃力の充実が課題として残る。一人でも多く信頼できるゲッターを育てることが必要でそれが成らなければ、秋も同大の後じんを拝すことになりはしないか。

○…大経大の3位は特筆してよいだろう。Aクラス（3位）進出は昭和33年春以来で関大を窮地に追いこんだ試合ぶりなどみごと。若手が多いだけに今後の成長が楽しみである。

関学は飯端の抜けたアナがやはりひびいている。甲南・京大も精彩を欠いた。京大の最下位は昭和34年春1部復帰後初めて。秋の奮起が望まれる。

○…二・三部は近来にない活気がみられ〝三部制〟の成果を示した。

優勝はかっての一部校が飾るところとなったが、二部では大阪体育大の成長にいちぢるしいものがあり、三部では新加盟の大阪外語大が五割の勝率をあげて注目された。各校とも気力が充実し、この面だけを採りあげれば一部の下位校をしのぐことさえあった（梱野行男・関西学連委員長）

関西学生春季（1部）

	同	関	経	甲	学	京	得	失
①同志社	×	○	○	○	○	○	107	63
②関大	●	×	○	○	○	○	72	60
③大経大	●	●	×	○	○	○	78	71
④甲南	●	●	●	×	○	△	68	88
⑤関学	●	●	●	●	×	○	63	69
⑥京大	●	●	●	△	●	×	64	91

同志社大の優勝は4シーズン連続12回目。各試合スコアは前号に既報

▽男子2部

桃山学院大 23—14 神戸大
大阪体大 16—15 大阪府大
大阪大 18—13 大阪学芸大
大阪大 13—10 大阪府大
大阪体大 21—12 大阪学芸大
神戸大 15—13 大阪学芸大
大阪体大 13—11 大阪大
桃山学院大 21—8 大阪府大
大阪体大 16—9 神戸大
大阪府大 21—11 神戸大
桃山学院大 30—12 大阪学芸大
大阪大 17—16 神戸大
大阪府大 32—17 大阪学芸大
桃山学院大 15—15 大阪体大（分）

【順位】①桃山学院大4勝1分（得点率〇・六二三）②大阪体育大4勝1分（〇・五七）③大阪大3勝2敗④大阪府大2勝3敗⑤神戸大1勝4敗⑥大阪学芸大5敗

▽3部

和歌山大 14—13 大阪薬大
大阪市大 16—13 京都教育大
立命館大 20—15 大阪歯大
京都教育大 20—11 大阪薬大
大阪市大 27—16 大阪外語大
大阪歯大 31—7 和歌山大
大阪市大 16—15 大阪歯大
立命館大 24—9 京都教育大
大阪外語大 31—11 大阪薬大
立命館大 33—11 和歌山大
大阪市大 26—10 大阪薬大
京都教育大 22—19 大阪外語大
大阪外語大 30—17 和歌山大
京都教育大 25—12 大防歯大
大阪外語大 38—14 大阪歯大
立命館大 17—13 大阪市大
京都教育大 29—14 和歌山大
立命館大 22—14 大阪外語大
大阪市大 23—14 和歌山大
大阪歯大 35—13 大阪薬大

【順位】①立命館大6戦全勝②大阪市立大5勝1敗③京都教育大4勝2敗④大阪外語大3勝3敗⑤大阪歯大2勝4敗⑥和歌山大1勝5敗⑦大阪薬科大6敗

明大、1部に返り咲く

▼関東学生各部入れ替え戦（5月27日・駒沢）

▽1—2部

明大（2部）20（9—9 11—4）13 慶大（1部）

明大は2シーズンぶりに1部復帰。慶大の2部転落は昭40春以来。

▽2—3部

明星大（3部）25（16—5 9—10）15 茨城大（2部）

明星大は2部へ昇格

桃山学院大は昇格ならず

▼関西学生各部入れ替え戦（京都）

▽1—2部

京大（1部）15（10—5 5—6）11 桃山学院大（2部）

京大は1部に残留

▽2—3部

立命館大（3部）24（12—8 12—6）14 大阪学芸大（2部）

立命館大は2部に昇格

独協大が発足

独協学園大学（東京）にこのほどハンドボール部が発足。はやければ今秋から関東学連に加盟する。

西部日本学生・詳報

（一部成績既報）

第17回西部日本学生選手権は5月27・28日山口大経済学部グランドに中四国学連8校、九州学連7校の計15校が参加して開かれ、九州1位の西南学院大が山口大を延長のすえ破り2年連続優勝した

▽1回戦

岡山大 29—9 福岡工大
九州大 18—13 山口大(工)
九州産大 26—17 広島大福山
山口大 29—10 東海大
広島工大 12—9 熊本商大
鹿児島大 5—4 広島大
広島商大 7—6 近畿大(工)

▽2回戦

岡山大 17—8 九州大
山口大 24—20 九州産大
鹿児島大 24—16 広島工大

▽準決勝

西南学院大 15—11 広島商大
山口大 20（13—4、7—8）12 岡山大

▽3位決定戦

西南学院大 22（14—3、8—5）8 鹿児島大
岡山大 16（7—7、9—8）15 鹿児島大

▽決勝戦

西南学院大 13（5—4、4—5、…、1—0、3—1）10 山口大

得	【西南】		【山口】	得
0	奥	GK	柴田芳	0
0	有吉	GK		
3	佐藤	FP	本田	0
3	坂田	FP	吉川	1
2	分山	FP	木本	1
1	綾部	FP	後藤	0
1	小島	FP	中田	4
3	安部	FP	柴田保	1
0	吉安	FP	一岡	3
0	鶴田	FP	中内	0
0	上田	FP	中野	0
13	（2）	7MT	（1）	10

めだったラフ・プレー

〜関東学生春季リーグ回顧〜

進境いちぢるしい東女体大

〔記録前号既報〕創立30周年を迎えた関東学生春季リーグ戦は男子1部立大、2部明大、3部明星大、女子日体大の優勝で閉幕した。

○…男子1部で3連勝した立教大は世界選手権代表木野、北村を軸にすばらしい攻撃力を見せ、危げない試合ぶりで全勝した。

木野、東の強烈なシュート力を北村、野田のポストマンがうまく活かしておりその多彩さと試合構成力は抜群である。

名手尾形の卒業で心配されたGKも天野が無難にこなし大きな破たんをまねかなかった。

攻防両面で自信満々の立教だけにその連勝をストップさせるのは秋季においてもかなり難しいのではなかろうか。

○…2位の日体大は、よく走ったことが好成績の因。ポイントゲッター神谷をはじめ大宮らのチームプレーは、試合巧者の伝統を久しぶりに見せたといえよう。

芝浦工大の3位は意外だったがスピードにたよりすぎてかえって自滅していたようだ。巧者近藤の卒業でエース近森を活かし切れなかったのもひびいている。

4位以下にならんだ教大、中大、早大、法大の実力は紙一重だが顔ぶれからすれば教大、早大はさらに上位へ進出するだけの力をもっている。4校とも試合ごとに調子の波が変わる〝不安定〟をとることが今後の課題であろう。

○…秋季から一部に返り咲く明大は勝利への執着心と粒ぞろいの布陣で一部でも上位の成績を示すことができると思う。

女子は日体大の連勝よりも東女体大の進境が特筆される。今春のリーグ戦で男女を通じてのこれはハイライトだ。

両校がしのぎをけずりあって、実業団のトップチームと互角にわたりあう日が来るのを楽しみに待ちたい。

○…今春のリーグ戦全般を通して反省をうながしたいのは、ラフ・プレーが目立ったことだ。

斗志と粗暴を混同し、〝勝つ〟ためには手段を選ばずといった風潮があるのは学生スポーマンとして恥ずべきことである。

連盟の意向として、若いレフェリーの登用を積極的にしたがため、その〝若さ〟がラフプレーをみのがすことにもなっていた。審判技術の向上も急務であろう。昭和13年5月第1回リーグを開いて以来ちょうど30年。加盟校の増加でリーグの運営も広がる一方だが、ともかく土・日曜にはOBをはじめ多数の観客（有料）を動員出来るまでになったのは喜ばしい。

今シーズンはグランドの関係でウイークデーにも日程が組まれていたが、学生スポーツのありかたからみてこれは好ましくない。土曜の午後と日曜だけで全日程を消化するように努力したい。（安藤純光・関東学連理事長）

岡山大、3シーズン連続優勝

春の中四国学生リーグ

春の学生公式戦最後を飾る中四国学生春季リーグ戦は6月17・18日岡山大球技場に一部5、二部5（広島工大新加盟）校が参加して開かれ、一部は岡山大が全勝、3シーズン連続優勝を飾った。

▽一部

岡山大 21—9 広島商大
山口大 27—10 山口大工
岡山大 24—14 広島大
広島商大 15—10 山口大工
山口大 30—14 広島大
山口大 12—10 広島商大
岡山大 14—11 山口大工
広島商大 19—13 広島大
岡山大 19—14 山口大
広島大 20—10 山口大工

【一部順位】①岡山大4戦全勝②山口大3勝1敗③広島商大2勝2敗④広島大1勝3敗⑤山口大工学部4敗

▽二部

広大福山 16—14 広島工大
愛媛大 22—15 近大工学部
松山商大 23—14 近大工学部
広大福山 18—9 近大工学部
松山商大 29—22 愛媛大
広大福山 24—13 愛媛大
広島工大 16—14 近大工学部
松山商大 19—17 広大福山
山島工大 22—14 愛媛大
近大工学部 14—12 松山商大

【二部順位】①広島大福山②松山商大③広島工大④愛媛大⑤近大工

激戦のAブロック 男子

全日本学生の組合せ決まる

7月11日から5日間東京・駒沢球技場で行われる第10回全日本学生選手権（女子は第3回）の組み合せ抽せんは、6月20日東京で行われ別表のように決まった。

男子はこれまで通りトーナメントで史上最高の35校が参加。女子は7校によって2ブロックによる予選リーグと決勝リーグ。左表の○内数字は出場回数。

○——○——○

【男子】関西のは者・同志社大が姿を見せぬ以外は有力校がすべてエントリー。10周年大会を記念するにふさわしい内容が期待できそうである。

組み合せをみるとAブロックに2連勝をねらう芝浦工大をはじめ日体大・関大と東西春の2位校と、地方のホープといわれる中京大、西南学院大などが集り、最大の〝激戦地〟になった。

どこが勝ち残るにしても、次から次へと強豪と当るわけで容易ではない。順当なら芝浦工大―日体大だろうが、芝浦工大に対する中京大、日体大に対する関大はもつれる可能性も出てこよう。

Bブロックは、法大が残りそうだ。しかし甲南大の黒馬ぶりは定評があり、慶大も春2部に落ちた汚名をこの大会にかけており予断は許さい。

Cブロックは東京教育大、中央大、明大の関東勢の争いとみられるが関学の奮起、東北学院大の食いさがりも注目される。

Dブロックは立大の進出が色濃い。東海1位の名大は苦しいクジをひいた。上り坂の大阪経大がどこまでやるか。早大も意欲充分だが今年の立大には一歩ゆずらざるを得まい。

波乱なく進めば準決勝は芝浦工大（又は日体大・関大）―法大、東京教大（又は中大）―立大となるのではなかろうか。この4校では関東学生春の実績からみて立大がやはり最有力ということになる。

大会の盛りあがりは関西及び地方勢の試合ぶりにかけられているともいえ、関大、甲南大、関学、大阪経大、中京大、西南学院大の奮戦を特に期待しておきたい

（藤本）

日体大の〝連勝〟が焦点

【女子】参加7校をまず2組に分け、各上位2校で決勝リーグを行うが、順当ならA組は日体大、中京女大、B組は東京女体大、中京大と去年とまったく同じ〝ベスト・フォア〟になりそう。

焦点は昭和36年以来学生チームに負けていない日体大（注・関東学生リーグ戦復活（昭和36年秋）後53連勝）がどこまでその記録を伸ばすか、あるいはレベルアップの他校のうちどのチームがストップをかけるかだ。春の関東学生では東京女体大の食いさがりを許したとはいえ日体大のバランスのとれた攻守は光る。手のうちをあまり知られていず攻撃力に成長いちぢるしい中京大の試合ぶりに期待をかけておこう。（杉山）

女子

▷予選リーグ

【A 組】

日体大③　中京女大②

日女体大③　松阪女短大②

【B 組】

東京女体大②　中京大②

東京学芸大②

▷決勝トーナメント

予選リーグ上位2校による決勝リーグを行なう。ただし同一チームの対戦は予選リーグの成績をそのままいかす

ハイ・ユニ

黒く・濃く・きれいに書ける理想のシン

そのヒミツは

理想の粒度配合

このようにして世界選手権を獲得した

チェコチームのコーチ、ベードリッヒ・ケーニッヒは語る

チェコスロバキヤが今春の第六回男子七人制ハンドボール世界選手権大会で優勝したのは周知の事実である。

チェコスロバキヤチームを世界の王座につかせたのは、もちろんチェコのハンドボール関係者の一致協力があったからであるが、何といっても、一番大きな貢献をしたのはチェコチームのコーチ、ベードリッヒ・ケーニッヒである。

——・——・——

一九六七年一月二一日、ロックルンダ室内体育館で、第六回男子七人制ハンドボール選手権大会の決勝戦終了の笛が審判ヤネルスタムスの手で吹かれた。チェコチームがデンマークチームを14—11で敗り世界の王座についたことを告げる笛だ。

チェコチームの選手はもとより関係者すべてがこおどりし、喜びあっているなかで、過ぎし日の憶い出にひたりつつ、長かったこの日までの道に考えを果せ、一人感慨にふけりいっている男があった。彼の脳裏に去来したのは、一九六四年の第五回大会の準決勝でのルーマニアとの試合（15—16で敗戦）であり、一九六一年の第四回大会の決勝戦（ルーマニアに8—9で惜敗）であろう。とびあがり、勝利を喜んでいる人々より、どれだけ深く、彼がこの勝利をじっとかみしめていたかは判らない。

この男こそ、チェコスロバキヤチームを世界に冠たらしめたコーチ、ベードリッヒ・ケーニッヒである。

ベードリッヒ・ケーニッヒは一九三〇年一月二四日、ポーランドとの国境に近いオルムーツ近郊に生れた。幼少年時代をナチの占領下に過し、長ずるにおよび、一九四八年にこの地方に古くから行なわれている球技、ハゼナ（東欧圏に古くから行なわれているハンドボールに類した球技）をはじめ、翌一九四九年には、七人制ハンドボールをはじめた。

一九五一年には、チェコ第一のチーム、デュクラ・プラーグに加入し、一九五三年には栄あるナショナルチームの一員になった。

以後多くの国際試合に参加している。七人制の試合二二、一一人制の試合一四という豊かな国際試合の体験をもち、世界選手権にも四回選手として参加している。七人制大会は第二回の一九五四年のスウェーデン、一九五八年の第三回の東ドイツ、一九六一年の第四回大会（於西ドイツ）、一一人制は一九五五年の西ドイツに於ける大会にそれぞれ選手として参加している。一九六〇年一一月デュクラ・プラーグのコーチとなり、一九六四年の大会には、マルツ教授とともに、チェコ選手団を率いている。

彼はベテランのコーチであり、充分な、彼の意図した形での準備を行なってきていた。優勝して十日後、彼のチームであるデュクラ・プラーグを率い、ヨーロッパカップのため滞独した時に語ったのが次のような内容である。

☆　☆　☆

第五回世界選手権終了後、チェコスロバキヤハンドボール界がまず、最も力を入れたのは、国際試合を豊富にやることにあった。この目標は充分達成されたとは云えなかったがまずまずの成績を挙げることができた。

まず、一九六四年には、ユーゴスラビアと、次いで、ベテランのトロヤン、ラダ、ビチヤ、インクなどを抜かした新進チームでポーランド、ハンガリーと試合をした。この時期からすでに組織的な準備をはじめた。我々は新しい選手を、新しいタレントを探しはじめたのだ。古い、経験の多い選手はどんどん補充していかなければならない。古い選手というのは十分に知っているが、それ以上を出るものではない。これらの試合はユーゴーとは18—12、ポーランドとは14—9、ハンガリーとは24—11で勝ち、初期の目的をとげることができた。一月後には、ブタペストに遠征した。ここの試合は比較的楽であったため、新人を多く登用し、彼等の国際経験をつむことができた。ブルガリアに34—10と勝ち、またハンガリーにも28—15と大勝した。ここまでは、この年は順調であったが、次にルーマニアを迎えうった時はそうはいかなかった。

この時のルーマニアチームはモーゼルを欠いていたが、すでに成長著しいグルイアがエースとして登場していた。終る十分前までは快調に試合を進めていたが、12—18と大敗をしてしまった。

この年の暮、スカンディナビアに遠征をした。この時もラダなどのベテランに代り、新人を連れていった。これはチェコチームにとって、大きな試錬であった。一週間に五試合を行なうという強行日程をたてた。スウェーデンと二試合、デンマークと二試合、ノールウェーと一試合である。

結果はスウェーデンとは一勝一分、デンマークとは二試合とも好試合であり、一つは15—15で引分、もう一試合は13—14で惜敗した。ノールウェーには問題なく勝つことができた。

一九六五年はチェコチームにとってよい年ではなかった。国際試合も十分にできなかった。まず東ベルリンにのりこんでの、東ドイツとの試合は11—15で敗れた。ついで世界選手権の予選が行なわれはじめた。

ブラチスラバにオーストリアを迎え、35—15で敗り、プラーグにノールウェーを迎え、これまた15—9で敗り、六五年の予選はおわった。この年はあと西ドイツとプラーグで試合を行ない、28—16と大勝しただけにおわった。

一九六六年はまず東ベルリンに新しいナショナルチームの顔見せを行ない、帰りはブタペストにより、両方で勝利を得た。一月末には、エッセンで西ドイツと対戦し、これには20—26で敗れた。三月になり、世界選手権予選のリタ

チェコナショナルチームコーチ、
ベードリッヒ・ケーニッヒ

ーンマッチがはじまった。

まずオーストリアとウィーンで対戦し、22—19で敗り、ノールウェーとはエレベルムで対戦、22—20で終った。この試合はきわめて困難な試合であった。というのはヨーロッパで六六年に優勝したDHfKライプチッヒとの試合のため、ナショナルチームに入っている数人がデュクラ・プラーグとしてライプチッヒの試合にさかれていたからである。

五月、六月には、ナショナルチームの候補選手三十人がプラーグに集り、最初の合宿がはじめられた。ここから、コーチ陣の選手の撰択がはじまり、秋の準備期間までには、選手は決定されつつあった。一一月の二〇日に再び合宿が行なわれた。ここでは選手の数は二五になり、オルムーツ、フラニースなどで練習は続けられていた。ここでの主な目的は二五人の選手の個々の特徴を充分にとらえることにあった。二五人は同じ条件の下で練習し、充分にその能力をたかめていった。その後の六つの国際試合（ルーマニア、スイス、ソ連と各二試合）で、選手の力ははっきりとしてきた。これらの試合では、特にその試合用の準備をせずに行ない、それまでの練習の成果を充分に発揮することが目的とした。

その後、意図的な練習（対戦相手を頭に入れての）をスラビア・プラーグ、ボヘミアンズ・プラーグ、プラーグ選抜チームを相手にして、試合形式で行なった。それぞれのチームに対戦する時には、その試合々々の課題と目的をもって行なった。

次に第二の準備期間が始まる。この時、私はスウェーデンに行く人間を一六人に絞った。中には、一八人にしておけとの声も強く、事故があったらどうするとの反対の声もあったが、私はそれを押し切り、一六人にした。というのは、一八人にしておいた場合の選手の心理的負担があまりにも大きいことを考えたからであり、これに比べれば、事故は問題ではないと判断したからである。

この第二の期間には、徹底して相手に対する研究を織りこんだプレイを練習した。しかも細い点、たとえば退場になった場合の処理の仕方、フリースローの際、相手の巨砲をどのようにして押えるかといった練習である。グルイアをどうやって押えるかもこの時研究した。

攻撃、守備のコンビネーションプレーもこの時に充分に練習したことが実った。前に行なった六つの国際試合もチェコチームの弱点を知るには大いに役だっていたから、この弱点をカバーすることも重要な課題であった。この時にも国内の主要チームを相手に選び、守備体制を5：1、4：2、3：3と種々に変え、また攻撃する時にもそれぞれ仮想敵に合わせた体制をしき、対戦した。この時には、10分間あるいは15分間の試合を4回やり、最初の10分間は守備陣形を5：1にし、次の10分は4：2にするといった、それぞれの目的に応じた試合を行った。この時世界選手権チームは常に数点のハンデイを背負いそれを挽回するという形で試合を行なった。

また多くの筋力をつける運動をも行なった。その上、太る体質の選手には特別の献立を作り、太らないようにつとめた。数キログラムやせ、きわめて調子のよくなった選手をあった。また、肺活量、心臓のパルス等もスイス、ルーマニアとの試合時に計り、その後の練習に大いに役立てた。交替の時期その他が適確に捉めるようになったのは大きい。

スウェーデンで対抗するであろうすべてのチームの試合はこくめいにフイルムに納め、徹底的にそのくせはのみこんでいた。これは選手にも充分に判るまで上映し、参考にさせた。たとえば、プラーグで行なったルーマニアとの試合は3方向から撮映し、ルーマニアの特徴を余すことなくフイルムに納めた。

また多くの無記名調査も併せ行なった。これは選手に対して行ない各選手に書いてもらった。たとえば、試合中にコーチを注意していたか、レフェリーの指示は、観衆はどうか、同チームの選手はどうかといった質問をし、90パーセントの回答を得、大いに参考になった。しかも非常に好評であった。それに次いで、現在、チェコのナンバーワンプレーヤーは誰と考えるかとかいった質問もしたし、更には今大会で何位になれるかとの質問には、二人が四位、あとは少くとも三位にはなると答えたのは興味深い。

各国はそれぞれの準備をしていたと思う。スウェーデンは室内でやりなれているし、ルーマニアは十二分のトレーニングを積んできて、三度目の王座をねらうであろうし、チーム力をあげてきている東ドイツはどうなったろうか、西ドイツは国内リーグの戦がたけなわであり、ソ連も十分に力を貯え、好成績を狙っているとか種々の情報がもたらされた。

我々のチームは独自の方針で、この一九五四年に大会を開き、優勝した国にのりこむことになり、その通りにした。その時の私のいつわらない感情は、どこの国も力をつけているので、どこの国もチャンスは公平であると考えていたものだった。

—・—

以上のようにケーニッヒは述べ世界選手権をとるためにした努力を語っている。彼は今回の世界選手権獲得によって、チェコスロバキヤスポーツ連盟から、功労コーチという称号を彼の誕生日の前日に贈られている。信頼を説くコーチとして、益々チェコのハンドボールを発展させていくであろう。

フランスの技術研究（1）

個人技術が基本

訳 藤本 強
（日本協会常務理事）

先号まで西ドイツの技術研究を連載してきたが、今回から数度にわたって、フランスの技術研究を連載していく。

フランスの7人制ハンドボールのレベルは超一流とはいえないが、けっして低いものではなく、IHF（国際ハンドボール連盟）の技術委員会のメンバーをも出しているぐらいの高いレベルをもっている。

今回から連載していくのは、このフランスから、IHFの技術委員に選ばれているルネ・リカール氏とJ・パントウロー氏の共著になる「7人制ハンドボール」を中心にして紹介していくことにしたい。

この本は技術、戦術、トレーニング、体力の四つに大きく分けて書かれている。

両氏ともフランス選抜チームの役員をつとめており、特にリカール氏はフランス選抜チームの技術面のコーチとして広く知られている。

内容もトップレベルにあるものから、ごく初歩的な入門者に至るまで、充分に利用できるように、高度の内容をごく平易に書いている。

本文には図が多くないが、つとめて、図も多くし、判り易くしていくつもりである。

個人技術

技術と戦術の差は単に説明を判り易くするというだけのものであり、実際の競技の場合にはこの二つの要素は常に一緒になっているものである。

ハンドボール競技において、技術は与えられた力でもって、より多くの成果を達成し、より多くのゴールを得ることである。技術的に相当な域に達っしている選手はごく少ない力で大きな成果を得るものである。

技術は多くの細かな実際の練習（フットワーク・キャッチ・パス・シュート・ドリブル等の）を規則正しく行なうことによって習得されるものであり、完成への過程として多くの練習が採用され、欠点は克服されなければならない。

一般的にいって、技術によって述べられる基礎的な法則は決って、選手個人の自由、性格、フォームを拘束するものであってはならない。ハンドボールにおける一つ一つの練習はそれを行なう選手の性格と密接な関係にある。フォームというのは基礎技術に個人の性格の加わったものである。各選手は彼の神経、体力、筋力に応じた技術、彼のチームメートとは異ったあるいは相手にとってマークを必要とするような方式を持てば良い。

第1図

一、選手だけの基本練習

基礎姿勢（第1図）

各選手はどのような状勢にも対処し得る体力的・精神的な姿勢をもっていなければならない。それは良く平均のとれた、柔かな姿勢で、重心を低くし、ひざはまげ足は肩の巾と同じに開いて、体は正面に向け、腕は体につけ、完全に力を抜いた状態である。この姿勢は「注意をこらした脱力状態」と呼ばれ、スタート、ダッシュ、リズムを変える等すべての要素が競技の中で常に必要としている。

フットワーク

これはアメリカのフットワークのことであり、足の動かし方である。このフットワークは方向を変える時、走る方向を急に変える場合、非常に重要な物となるのであり、守備、攻撃ともに十分な特別な練習をしなくてはならない。

a 防禦

ボールを持っていない時のアタック

姿勢

基本姿勢をやや高くとり、足を狭め、脚をややまげ、腕はインターセプトの準備をし、重心は両足にかける。

位置

ゴールと相手の間に位置し、相手に対してはもっとも大きく、ゴールに対しては、もっとも狭くなるような位置にたつ（特に相手を圧迫し、更にインターセプトできるようこころがける。）

準備

いつでも足を横にも、前にも動かせるように、しかもけっして足をクロスさせないようにしなければならない。足は地上をすり、いかなる変化にも対応し、前後左右に動けるようにしていなければならない。

ボールへのアタック

足はやや拡げ、腕もややまげ、手はやわらかく、インターセプトできる方向に置く、高いボールの場合には、高く伸ばし、低い時には下に伸ばし、アンダーパス、ドリブルをカットする。横の場合には、横に伸ばし、中位の高さのパスをカットする。ここで強調しておきたいのは、ボールをカットする際には、手が非常に重要な役割をするということである。

第2図に見られるとおり、シュートボールをカットするのは、

きわめて重要なことである。これはシューターの手からボールがゴールに向わないようにするのである。シューターから1〜1・5メートル離れた位置にいるのが成功の率がもっとも高い。より離れた位置にいると、ボールが離れる角度がより大きくなるため、カットはきわめて、難しくなる。

より近い位置にいると、シューターの手を見ることが難しくなりカットのチャンスがなくなってしまう。

防禦に入る者は必ずシューターの利き腕の側に位置することが肝要である。軽く手を曲げ、しかもゴールキーパーがボールの動きとシュートの際ボールがシューターの手を離れる位置が容易に見られるようにしなければならない。

位置が決ったならば、両手はすぐにボールがカットできるような位置にする。

カットする際には、両手を第2図のように交差させたほうがより有効であるが、第3図のようにしても差支えない。

カットに出る際には、単にボールのみを見ていてはいけない。ボールと相手を均分に視野に入れておきながら、カットに出るのが良い。

シュートされるボールをカットするのは、守備側としては、非常の手段であり、それまでにシュートを阻止するような方法をとることが望ましい。

ディフェンスに入っていて、シュートを阻止しようとして前に出るときには、シュートフェイントには決ってかからないように、足の巾、重心の置き方には十分に注意しなければならない。

第2図

この項をおわるに当り、ディフェンスに於いて、もっとも効果的なインターセプトについて触れておく。

基本姿勢を崩さないで、十分にボールに注意を払い、自己の能力、速度と相手のボールの動きを熟知していくことこそ、成功する基になる。また守備側のコンビも十分にとれている必要がある。

たとえば1・5防禦をしいていて、中央に出た一人が巧いならば、後例の中央の左右に位置しているもの（1・2・3システムならば、2に当る位置の選手）は大いにチャンスが生れる。

基本姿勢をとり、いつでもスタートがきれるように前足に重心をのせ相手のスピードを方向を充分に見定め、自己のインターセプトの能力の範囲にあると判断したならすかさず、とびだす。このインターセプトというのは、もっとも効果的なディフェンスであるのはいうまでもない。相手の攻撃の芽をつみとるだけでなく、自分の攻撃が行なえるのである。またインターセプトした場合、しばしば速攻のチャンスになり、たちどころに絶好のチャンスが訪れることになるからである。

同様にドリブルカットもきわめて重要である。これも距離を充分に測り、相手のスピードを知ることが大事である。

第3図

（補）ゴールエリアラインからシュートする際、シューターの手からボールをカットする技術も充分に磨いておかなければならない。これはきわめて、重要な要素となっている。

b　攻撃

ハンドボール競技はスタート、ダッシュ、方向転換の連続する競技ということができよう。

スタート

（直接）相手を抜く時にスタートがいかに重要であるかは、良く知られていることである。

スタートの際には上半身を前傾させ、足は力づよくけり、最初はこまたにしかも多くのステップで走りだすのが良い。

例、左のサイドに入っているものは左サイドからスタートし、自分についているデイフェンスをふり切り、中央に入っていくだけのスピードを身につける。

（フェイントを伴って）フェイントをかける際には、シングルフェイントとダブルフェイントがある。フェイントというのは、自分の動こうと思う方向に走りこめるように相手を動かしてしまうことである。相手を意のままに動かすことがフェイントであるともいえよう。

まず、第一段階として動く、これは通例、自分が意図する方向とは逆に動き、すぐに切りかえて自分の思う方向に動く。これがシングルフェイントである。またパス、シュートの組み合せによるフェイントも考えられる。これによってバックを動かし、意図するところのものを行なう。

フェイントが巧くできるかどうかは、動きの速さ、次の動きに充分余裕をもっていることの二つにかかっている。またフェイントのリズムも大切である。タイミングの遅れたフェイントでは、決ってバックはかからない。

例、パスのフェイントをした後すぐにシュート。

シュートフェイントのあとすぐにパスをする。

シュートフェイントのあと、ドリブルして突進

デイフェンスの動きがもっとも大きい時に次の行動に移るのがフェイントのコツである。

例、左へスタートする場合、まず左足に体重をかけ、右にスタートするようにし、左足に体重はかけておき、右足を動かし、すぐにピボットして、足も体も左にスタートする。この時肩と体で相手をさえぎるようにする。同様に全く逆に行えば、右にスタートすることができる。

ダブルフェイント、これは先に述べたことを、同様なプロセスで、左右左と行なってからスタートする方法である。

各選手が豊富なフェイントのテクニックをもっている、高度な技術のチームでは、それぞれの選手があらゆるパス、シュート、フットワークのほかに、種々のフェイント（たとえば眼、肩、頭などを使う）をもっている。

チームの全員が、組織的に、コンビネーションをとったフェイントの練習をするのが望ましい。これを充分に練習しておけば、単純な一人の動きではとてもできない組織的なフェイントプレイをチームとして行なうことができる。

時評

欲しい見せる努力

観客動員に新鮮な企画を

○…最近どのアマチュア競技団体でも〝観客サービス〟ということにチエをしぼっているようでオリンピック東京大会以後の大会運営の手際のよさとあいまってファンの支持・好評を得ているようだ。

サービスといっても、プロとはちがい、おのずから限度があるのは当然だが、見る側の便宜を考えて〝見せる〟努力をしているのは歓迎してよい傾向だと思う。

サッカーが驚異的な進出をとげたカゲには日本リーグをはじめとする卓抜した若い企画力があったことは周知のとおりだし、伝統を誇る陸上競技や水泳の大会でも花形スポーツアナウンサーをつかってたくみな進行をみせている。

○…去年の11月東京で行われたバスケットボールの学生東西対抗では、試合のあいまに学生のフォーク・ソングバンドがコート中央で演奏をおこない場内の雰囲気をやわらげるという奇抜なアイデイアを見せた。

この風景にでくわして記者がいちばんおどろいたのは、それまで選手の美技・妙技に声援していたファンが、メロデイが流れはじめると、すっかり音楽をたのしみ、手拍子さえ打った〝変り身〟である。

以前の試合場なら、たとえこうしたアトラクションがあっても、あくまで〝添えもの〟苦々しい顔をするファンさえいた。

それがどうだろう。熱狂の試合場が瞬時にして〝音楽会〟になったのである。

ファン層のうつりかわりをこれほどはっきり感じたことはなかったし〝スポーツのみかた〟の変化も知らされた思いだった。

バンドが退場して試合が再開されるや、バスケットボールに再び魅了されたスタンドにもどったのはもちろんである。

○…試合場にバンドを呼ぶことの是非はともかく、オリンピック東京大会以後スポーツ熱の高まりを反映して「今日はじめてこの競技を見に来ました」という観客が目立つ。

そうした観客を逃さぬことが大げさにいえば、競技の発展につながることになりはしないだろうか。

ハンドボール界の場合、残念ながらこうした企画力、演出力はまったく乏しい。

観客の大半は、高校や大学の部員なのだからいまさら競技の解説をしたところで…という甘い考えが強いのだ。

そんな気持ちが、誠意のない選手紹介になり、おざなりの開会式に現れる。

観客サービスといってもショウをやれというのではない。

仮に、その日ハンドボールを初めて見に来た人が一人であっても、ハンドボールを理解してもらう努力をはらうべきだといいたいのだ。

企画もなく努力もなくではいっまでも発展は望めないのではなかろうか（S・S）

おもいつくまま

長期の見通しと財源の確保を

予算原案が呈示された。各部から提出された原案は非常に大きなものであったと聞いている。

それを何とか調整し、原案に達っしたとの話である。調整し、こうした原案を作るのはさぞかしの努力があったことであろう。

各部ともやりたいことはままあり、思うように運営するには、まず金であろう。乏しい財源をやりくりするのであるから、どこも思うようにはいかないに違いない。

一銭でも多くというのが真情であろうし、それももっともなことということができよう。

しかし、限られた財源をより効果的に運営していくのはどうしたら良いかということをもっと巨視的に見ていく必要があるのではないだろうか。

全額を投じたところでしれたものである。それを各部、各加盟団体で欲しいのも判る。各部、加盟団体とも財源がなく、個人の出費あるいは労力奉仕に頼って、やっている実情も確かである。こういった状態があるべき状態ではないのは明らかである。

ぜひとも全員協力して財源の確保をすべきであろう。

それまでの協会はどこに重点投資をすべきかを五年ないし、十年の見通しをもち、充分に討論をつくし、財源の配分をすべきではないだろうか。

一年、二年先しか考えずに、いくら考えて重点投資したところでその後のアフターケアがなくてはどうなるものでもない。

現時点に於いて、日本ハンドボール界全員が我等は今何をなすべきなのか、重点はここ五年は何に置くべきなのかを充分に考え、来年度からの協会の運営に当るべきではないだろうか。

すぐに手をつけなければならない問題はあまりにも多い。例えば国内の普及、世界選手権に力をつくす等々山積している。

今年一年こういった問題を十分に討論して、来年度からは長期の見通しにたった五ケ年計画でも打ち出し、重点的に予算も人もつけて、その目標はこの五ケ年間に達成するように全員協力していくといった体制を確立することこそ急務となろう。

財源の確保これは先号で杉山氏が触れているようにすぐにかからなければならない。

寄付金、試合の有料化、協会発行の解説書の刊行による印税等々探せば財源はいくらでもある筈である。

一致協力して、長期の見通しをたて、財源確保に努力しよう。名案を編集部宛どしどし寄せられることを期待する。本誌が種々の問題の討論の場になることも併せて期待する。（TS・F）

ションあれこれ

~ールヴォッヘ"より~

シュートモー

~"ドィチェ•ハンド

ゲオルゲ・グルイア
ルーマニアの生んだ
驚異的選手

ルーマニアのナショナルチームは今年度の世界選手権では、新旧の交替がうまくかみあわず、三位にとどまったが、今大回では、従来のエース、モーゼルに代り、サウスポーのロングヒッターが登場した。

ルーマニアがハンドボールの選手作りに一生県命であることは広く知られているが、ここに紹介する選手もこういったハンドボールの選手として養成された一人である。

先に行なわれた世界選手権のジュニア大会で、ルーマニアが優勝したのは既報の通りであるが、ここに登場するグルイア選手もこれらジュニア大会の優勝メンバーとともに、ここ何年かのルーマニアチームを背負ってプレイしていくことは確かである。

その選手の名前はゲオルゲ・グルイアと呼ばれている。

彼がグルイアという名をもっていないならば、「身の毛をよだたせる男」と呼ぶのがもっともてきとうではないかと西ドイツのハンドボール記者ハンス・アプフェルは語っているほど、グルイアのシュートはすばらしい破壊力をもっている。

彼は単に国際的名声を誇っているゴールキーパー全員に恐怖をおこせるだけでなく、彼と対戦するチーム全員に恐怖をもたらしていた。

遠くから放つグルイアのロングシュートは確実に決る。彼は全速力でのダッシュとそれに続く、彼独持の高い遠いジャンプ、その高い位置からの誰にも妨げれない強力、正確無比のシュート、これがゴールの上のコーナーにピシリピシリと決るのであるから、各国デイフェンスの恐怖の的になるのも無理からぬ話である。

今回の世界選手権では、得点王をリョーブキングにゆずったが、これは、彼をカナダとの試合に休ませたルーマニアのコーチ、クンスト氏の配慮によるものである。

身長は一・九四メートルとルーマニアでは第二の長身である。（身長第一位はロングヒッター、ローランド・グネスであり、グネスは一・九六メートルある）

過日の世界選手権では、チェコとの試合には11点を、ソ連との試合には3本の7Mを含め12点をたたきだしているのだから、まさに驚異の存在である。

このような状況であるから、国際的に有各なチェコのコーチ、ベードリッヒ・ケーニッヒ、ソ連を一流レベルまで引きあげるのに多いに貢献した名コーチ、ゲオルグ・シャラシードセもグルイアには一人人間をつけ、マン・ツウ・マンで当らせ、グルイアを封じこめようとしたが、結果は11、12点とたたきだされてしまったのだからどうしようもない。

グルイアは多くの場合、最後にスタートして攻撃に参加する。そしてスピードをつけ、三歩のリズムに合せ、充分に高いジャンプをする。このジャンプによって、デイフェンスラインの完全な上に出てしまう。

このようなジャンプをされたなら、ゴールまでグルイアをさえぎるものは何もない。キーパーも蛇にみこまれた蛙のようなものである。

このジャンプがまたきわめて長く空中にいる。守備陣のジャンプがおちてしまってもグルイアのジャンプは続いている。そこでグルイアはシュートを放つ。

各コーチは種々考えた。たとえばグルイアが走っている時に阻止するとか、ジャンプを妨げるとか、しつっこいマン・ツウ・マンを行なうとか、色々と考えはしたが、いずれも机上のプランの域を一歩もでるものでなく、グルイアの活躍は益々続いてでる。

マン・ツウ・マンも度をこすと反則が多くなり、フリースローをしばしば与えることになる。これはルーマニアにとっては絶好のチャンスとなる。この時には味方のブロックもあり、すくなくとも、やや落ちついた状態でシュートがうてるからである。グルイアにとって、フリースローは得点を重ねる絶好のチャンスになっている。

ソ連との試合では、彼の肩までないソロムコがマン・ツウ・マンについた。ソロムコはリョーブキング、シュミットなどはピタリと押えた実績のある選手である。グルイアはこれをものともせず、得点を重ねていった。

彼の存在がいかに大きいかはいうまでもない。また7Mスローのシューターとしても一流中の一流ということができよう。

ルーマニアと云えば、現在はモーゼルではなく、グルイアを指す声の強いのももっともなことであろう。

写真解説

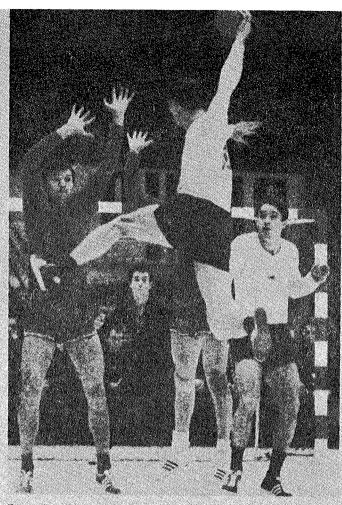
左上　グルイアはただ単にロングシューターとしてだけでなく、パッサーとしても非常に有能に活躍している。ポストに入ったプレーヤーにフェイントパスを投げこんだところである。

右上　グルイア自身の典形的なジャンプシュート、バックをはるかにぬいている状況が的確につかめることができよう。この位置から、彼の弾丸以上のシュートがゴールの上の角につきささる。

ソ連との試合の時の一コマであり、正に完全に上にぬいてノーマークになってしまっている。これだけのジャンプは誰でもというわけにはいかない。天性の力と練習による鍛練がこのグルイアの秘密をもっとも良く物語ることができよう。

左下　平服のグルイア選手、これを見てもごくありふれた好青年であることがはっきりしているようだ。

右下　ソ連との試合がおわり、新聞記者にインタビューされているからグルイア選手、いろいろとポーズさせられている。

Der Linkshänder ist nicht nur Fernbomber, sondern auch Anspieler, hier an Otela und unten einmal in Zivil und mit dem Autogramm für den goldenen Handball.

Porträt eines Weltklassespielers: Gheorghe Gruia

Wo wäre Rumänien ohne den gefürchtetsten Fernschützen und Siebenmeterspezialisten, Gheorghe Gruia, geblieben, der mit seinen Wunderschüssen aus der zweiten Reihe in für Rumänien kritischen Phasen dann die Entscheidung herbeiführte. Der III. Platz der Weltmeisterschaft ist vor allem sein Werk. Oben überschießt er die Abwehr der Sowjetunion und unten läßt er sich von der Bildpresse bereitwillig „abschießen".

Aufnahme Hanns Apfel

球界パトロール

増加一途の大学同好ハンドボールクラブ

日吉ク、本家（慶大）しのぐ部員数

○…大学スポーツの主流はいまや伝統の体育会から同好会に移りつつある、というといささかオーバーだが、ともかく最近の学園におけるスポーツ同好会の発展は驚異的ですらある。ハンドボール界も例外ではない。芝浦工大、中大、法大、早大、慶大など各校につぎつぎとハンドボール同好会が生まれ、特に慶大の〝日吉ハンドボールクラブ〟は、ついに今年は本家（?）の慶大体育会ハンドボール部をしのぐ部員数を誇るまでになった。

○…日吉クラブの創立は昭和39年12月。愛知・旭丘高の選手だった山岸勝彦君（当時慶大1年）が体育実技や他のサークルで知りあった友人のなかから同好の士を集めてつくったものだ。

『大学生としての勉強をつづけていこうとするには、体育会のように練習などを義務ずけては両立させることがむずかしい』というのが山岸君たちの考えかただ。

体育会のいきかたを〝勝つためには授業放棄もじさない〟ときめつけるのは酷かもしれないが、少なくともこれまでの体育会部員の〝泣きどころ〟はついていよう。

それが慶大の場合体育会14名、同好会24名という部員数（いずれも6月10日現在）にあらわれ、しかも同好会24名のうち10名が1年生というのも体育会より同好会に傾く現代の学生の気持ちをはっきり示しているといえる。

○…日吉クラブは一週平均3日の練習、去年の夏は横浜で初めて合宿（5日間）もやった。

それればかりか神奈川協会に正式登録し、県選手権や横浜の市大会へ積極的に顔を出す。日本ハンドボール界のりっぱな一員である。

『しかし』と山岸君たちはいう。『試合や練習のために授業をサボッたりはしない。』

○…学業のかたわらハンドボールをたのしむ彼らの悩みは予算とグランド。日吉クラブの年間予算は約7万で1人1ヶ月五百円の会費と入会金千円でそれをまかなうのだが、その三分の一はグランド使用料に消える。

『去年の後半から慶応高校の練習相手ということで学校のハンドボール場を一週一回ぐらい使えるようになったのはありがたい。大学の体育施設がすべて体育会のためにあるのは疑問だ』とメンバーの口からここでもちょっぴり〝批判〟がでる。

○…皮肉なことに慶大は今春の関東学生リーグで全敗、入れ替え戦にも敗れて二部に落ちた。敗因は部員の不足だ、と誰もが見ている。

慶大・植田コーチは『こちらが練習マッチもできないというのに同好会は1年生だけで10名もかかえているとなると考えざるを得ない。

しかし、体育会に入ると勉強ができないというのは誤解もはなはだしい。それに学生時代なにか一つ打ちこんだものがあってもいいハズだ。』というが、慶大にかぎらず、キャンパス・ライフにおけるハンドボール同好会はまだまだ強まる傾向のようだ。

関東学連のある役員が本気とも冗談ともつかずにこうつぶやいた。『はじめのうちはそうした〝集り〟もハンドボール人口の増加になるとよろこんでいたが、こう盛んになると、今に〝関東大学同好会リーグ〟などというのが出来て、われわれと会場をとりあうなんてことにならないだろうね ェ』

球界パトロール

ひと足はやく〝日独対抗〟

長崎で両国スポーツ少年団が交歓

○…日独青少年交歓で3月来日したドイツスポーツユーゲント・スポーツ少年団（ハンスハンセン団長・総勢一三九名）は、南・北2班に分かれて全国各地で、日本のスポーツ少年団と交流したが、南まわり（九州・四国・関西）班が長崎で男子はサッカー、女子は地元佐世保の少女チームとハンドボールの親善ゲームを行い話題をまいた。

○…ドイツといえば〝ハンドボールの祖国〟。

リーダーの一人クラウス・ダンケルトさんが「ハンドボール教官」の肩書きをもっていることから急きょチームを編成して、この〝国際試合〟となったもの。

日本側は、地元佐世保市・大野スポーツ少年団のチームで、中学ハンドボール部員で固めた〝強豪〟。

○…濃紺のユニホームを着たドイツチームは16才から20才までというものの体格は成年なみ。しかも、国技ともいうべきハンドボールの試合とあって大変なはり切りようだったが、あいにくとキヴェリップさんはカヌー、シェーファーさんはスポーツ・ダンス、ヴェルターさんは卓球といったようにメンバーの大半はハンドボールが専門外。

体格では、ぐっとみおとりがするとはいえ、長崎国体を2年後にひかえて、このところハンドボールへの関心、技術ともに高まっている地元チームに走りまくられ、結局4点差で大野スポーツ少年団の勝ちとなった。

○…会場の長崎国際体育館のスタンドには〝主客〟の両国スポーツ少年団員のほかハンスハンセン団長や地元教育関係者、長崎ハンドボール協会関係者、父兄などが集まり、コートいっぱいにくりひろげられた若々しい選手の動きに拍手を送っていたが、ずい所に見せたフェアプレーと交歓風景は長崎県の心をこめたプレゼント・真珠のネクタイピンとネックレスの輝やきよりも、いっそう美しい光をはなってみえた。

球界パトロール

遠きよき思い出を求めて
11人制の試合挙行

東大・京大定期戦OB戦

東大・京大定期戦は例年六月、七月に一年置きに東京、京都と場所をかえ、行なわれている。現役戦だけでなく、日頃さしてボールを握る機会の少ないOB連中も年に一回の機会とおおいに期待して全国各地から集ってくる。

OB連も十年も前に学窓を出たのは、七人制は二・三度しかやったことがないものも多く、また運動不足もわざわいして、とても七人制のスピードにはついてゆけず、ただ単にベンチの場所ふさぎにしかならない者も出てくるようになった。

こういった人々から、一一人制をやろうじゃないかの声があがり昨年の定期戦はたまたま東大ハンドボール初代部長の朱牟田夏雄氏の現役部長最後の定期戦でもあったため、古いOBのノスタルジアを満足させようではないかということになり、一一人制のOB戦も行なった。

本年も6月11日に東大の御殿下グランドで東大・京大定期戦が開かれた。昨年の一一人制で味をしめたOBのやろうではないかの声が強く、一一人制をOB戦の第一戦として行なった。

結果は7－5で京大OBが勝ったが、今年は一一人制を生れてはじめてやるといった若いOBも登場し、なごやかなふんいきの内におわった。

どうだ、一一人なら俺もまだ見られるだろうなどと一寸いばるOBもいたのも御愛敬というべきか

試合後のミーティングの席上、今年四月から、朱牟田前部長の後を受け、東大ハンドボール部長に就任の松島静雄教授曰く、「私は今日ハンドボールをはじめて見ました。最初に一一人制というのを見たのですが、これはどうも間の抜けた競技で、ハンドボールっていうのは割合つまらない競技だな、こんなものなのかと思っていたのですが、次に若いOBと現役の七人制を見て、スピードもあり、激しい、すばらしいスポーツだと感心しました。」ここで鳴りをひそめて、ミーティングの席上、OB連の悪口を聞いていた現役連中はどっと湧いた。

続いて松島部長が「もっとも、競技の本質的な差なのか、競技する人間の質の差なのかは素人の私にはまだはっきりと判断がつきませんが。」との発言で、全会場は湧きに湧いた。

景気よくビールをあけ、俺も満更ではと大きな顔をしていたOBもこれにはシュンとしてしまった。

七人制を見馴れた眼には、一一人制は確かに間の抜けた競技に映るのは当然であろう。しかし、ときおり、機会を見つけ、一一人で育ったOBのノスタルジアを満足させるのもまた一興ではないだろうか。

他にも、三高クラブ（両国高校ハンドボール部OB）対茨城大学の定期戦で一一人制が行なわれたという話もある。

また、名大—阪大定期戦で、これも東大—京大定期戦の噂を聞き一つOB戦でやろうではないかとの話も出たが、これは実現していないようである。

こういった形の肩のこらない試合で、古きよき時代のOBがむかしがたりをしながら、ボールを握る、そんなノンビリした一日があってもいいと思う。

球史にもあるように日本のハンドボール界は一一人制で育った人間が多勢いるのだから。

（T・S・F）

球界パトロール

顔ぶれは豪華版!!
異色チームは練馬区

都民体育大会から

○…とにかく楽しい大会だった。全日本クラスの大会といかないまでも、選手の名前を見ただけでも豪華版。男子を見ても、品川区代表の大崎電気は竹野、北村、金田、福本、片山、近藤弟、練馬区代表の練馬クラブは今野、宮原（藤）、高森、近藤兄の芝浦工大OB、調布市代表の三景クは江名、尾形の全立大（尾形はFPとして出場）、千代田区代表は千代田印刷機の選手たち。一方女子は練馬区代表として元大崎電気の宇井、黒川、笠原、深津、早乙女、古谷らが登場。

年に一度の都民体育大会（第十回）である。会場はハンドボールになじみの深い駒沢。

○…チーム編成の傑作は、練馬クラブの男女両チーム。前述のように、男子は全くの寄り合い世帯。第一日の五月二十八日に、グラウンドで初めて顔を合わせたというのだから……。高森君が大きな腹をしながらトレーニング。スタンドから「関取!!、しっかりやれよ」と声がかかる。この高森君は一年ぶりにボールを握ったという。「あの大きなからだでよく走れるものだ」と観衆の中から驚きの声がとび出るほど。今野君は大崎電気の監督をしりぞいて職務に専念しているため、やはり練習不足。飛び込みシュートしたのはいいが、足腰が痛くて立ち上がれず、コートにへばりついている パスがまずくて後ろにそらし、このボールを追う者。息切れして途中で立ち止まる者—など観覧席からヤンヤのかっさいを博した。第一線選手の激しいあいまをぬうOBたちのプレーはいかにもシーズン幕あけを色どるにふさわしい和やかなものであった。

球界パトロール

判定解釈の全国統一を切望

松山で西日本地区講習会ひらく

○……今シーズン最初の大規模な講習会として注目されていた〝西日本地域審判法及技術講習会〟がこのほど愛媛県松山市・松山商大体育館で２日間にわたり開かれた。

競技人口の増加などを反映して沖縄をはじめ17府県から35名の関係者と地元愛媛の受講者百二十名が集まり盛況だった。

○……講習会の焦点になったのは世界選手権監督・村田弘氏による〝世界選手権大会の感想と欧州の近況報告〟それに〝審判に関する質疑〟。特に後者は講師の山田計、高橋満年、越智武氏の三氏をまじえて活発な論議が行われ、いくつかの疑問点が提出されたが、越智氏が「痛切な感想」と前おきして「判定基準を早急に全国統一する必要がある」としているのは注目されてよい。

○……審判技術の向上については機会あるごとに強調されているが、大会によってその判定基準が異るのはどうにかならないものかという声はなかでも大きい。

この講習会では「東日本と西日本で解釈に相異がある」と一応の反省をまとめ、本部協会に、統一の要望を出すことになったが、この問題は今にはじまったことではなく、本部審判部の積極的な態度が望まれている。

新しく審判部長となった安藤純光常務理事は『ルール解釈の統一がかけているということは以前から耳にしていたが、これは本部の解釈の伝達方法がわるかったために生じたものと思う。その方法を強化するようにしてよい方向にむけていきたい』といっており、具体的には学連・高体連・実連の各審判部長確立とブロック審判部の強化などが腹案にあると伝えられている。

また『毎年４月に年度内のルール解釈を統一して、各大会前の審判打ち合せや、監督会議で変更をしないようにすべきだ』という意見が出されたのももっともなことだ。

○……このほか講習会では『オリンピックをひかえ、国際試合の代表は、高校時代から優秀選手リストをつくり、その後の成長経過をみて選考することが望ましい』『ルールブックを誰もが見ても判るようにして欲しい。ファン用というのもあってよい』などの貴重な提案も出された。ナショナルチームの編成にはかなり多くの意見が述べられてこの問題に対する関心の高さを示していた。

九州でも講習会

九州地区審判講習会は５月13日、14日熊本市の済々黌体育館で開かれ51名が参加。講師は小袋是郎、藤田八郎、日野博、井薫の四氏が担当した。

連載・リレー寄稿

日本ハンドボール界の課題（2）

～三十周年を迎えた球界に望む～

村田　弘
（第六回世界選手権日本チーム監督）

　1937年第1回全日本選手権が開かれてから本年で30歳を迎えることになった。欧州ではその1年前の1936年の第11回オリンピックにハンドボール(一一人制)が行なわれた。またその年七人制が国際化され38年に七人制、一一人制の第1回世界選手権が開かれている。

　簡単に数字の上から較べると30年の開きがある。30年というが競技人口、技術その他いろんな点で大きな差はあったと思う。第2次大戦後又七人制の1本化によりハンドボール界は急速に進歩発展し、すべての面でこの開きは縮まっていることは事実である。今後も関係者の努力によって、先進国に追従しなければならない。

　30周年を迎え協会、指導者、審判員、選手に望みたい事を具体的に挙げてみると

1、日本ハンドボル協会に望む

(イ) 協会運営の充実と下部組織との協力体制

　協会の運営如何がハンドボール界の発展にまた下部団体の活動に影響する所が大であるから、内容を明確にし、アマチュア団体である以上フェアーにスピーディに運営してほしい。下部組織の地方協会や実業団連盟、大学連盟、高体連と密接な連絡及び適性な指導を行ない、下部はその独自の活動を活発にし、協会に対し協力体制をととのえてほしい。

(ロ) 底辺の拡充

　現在日本協会に登録されている競技人口は約4万人で、国際連盟に正式登録されている3万人以上の国は日本を含め、東・西ドイツ、デンマーク、ハンガリー、オランダ、ソ連、ユーゴ、スウェーデンの9ケ国である。日本もここまで普及発展したことは非常によろこばしい。しかし、今一番大きな問題は中学の指導要領にハンドボールが入っていないことである。

　この問題が解決すれば一つのきっかけとなり底辺の拡充が充たされ、ハンドボール界も更に大きく飛躍するだろう。ハンドボールをやる年代が若くなり、競技者が増えることによって、経験が充たされ肉体的・技術的バランスの調和がよくなり、当然技術向上、選手強化も軌道に乗り世界のトップレベルに達する日も近いだろう。中学といわず、小学校・幼年時代にボールと親しむようにさせたい。今後、協会はこの問題解決にあらゆる方策を練ってほしい。

(ハ) 技術向上と選手強化

　年々技術は向上している。協会は技術向上選手強化に対して力を入れるべきである。まず指導体系の確立と指導者の養成そして優秀なプレーヤーの強化合宿である。

　その方法の一つとして、ルーマニヤか西ドイツよりコーチを招聘することが急務である。また全国の優秀コーチ陣を集め、コーチ会を開き、意見の交換をし、技術研究を行う。

　それから国内試合（大会）が何かマンネリにおち入っているので一度再検討すべきである。

　また欧州から遠隔の地であるが財源の許す限り国際試合を多くし、国際経験を積むと同時に高度な技術と立派な根性を修得すべきである。

(ニ) 財源の獲得

　協会が事業を立派に運営するにはまず予算の裏付けが必要である。財源の獲得は非常にむづかしい難問題であるが、努力してもらいたい。

(ホ) PRとファンの獲得

　現今はPRの時代である。どんどんハンドボールをPRしてほしい。ハンドボールほど現代人の好むスリルとスピードに富んだスポーツはない。ハンドボールを知らない人またスポーツに興味のない人でも一度ゲームを見たら面白くなることは間違いない。PRにより、多くのファンを獲得すれば、今一層ポピュラーなスポーツとして発展するだろう。

2、指導者に望む

　指導者は選手をうまくし、チームを強くしたい念願を持って任に当っているが、指導の適性を欠いている点が多い。その一番大きな問題は基礎的分野の指導を怠っていることである。もっと基礎の重要性をよく知り、従来の観念的指導を改善し、絶えずフレッシュな気持と旺盛なファイトで指導研究に当ってほしい。

3　審判員に望む

　審判技術を第二義的に考えているのは大きな間違いである。審判技術の向上はハンドボール技術向上に重要な役割りを持っている。

　よく試合が終ると審判を批判するが、これは審判員も選手も反省しなければならない。現在の審判技術はハンドボール技術向上をさまたげていると思う。今後審判員はスピーディなゲーム運びと正しい判定のできるよう審判技術向上のため全力をあげてほしい。

4　選手に望む

　選手はチームの一員である以上自己能力の優劣がチームの絶対的条件であることを認識しなければならない。優秀なプレーヤーの条件とは肉体的能力・ボールを保持する能力・正確で強力なシュートなど基礎的分野における能力を身につけることである。

　よく根性々々というが、口先だけの根性に過ぎない。もっと根強い根性と勝利への執念、技術に対する研究心と練習々々、猛練習をやる以外にはない。練習も練習のため試合のための練習であってはいけない。試合に勝たんがための練習をしなければならない。

　選手はあまりにもハンドボール以外に欲が多すぎる。もっとハンドボールを好きになり徹底すべきである。以上簡単に要望事項をあげてみたが今後ハンドボール関係者が一体となり、チームワークをとり発展に努力してほしい。

"根性をもって"

水俣高校・女（熊本）

わが水高ハンドボール部には伝統こそありませんがよきりっぱな先輩を持っています。現在大洋デパートの主将でヨーロッパ遠征されました。また東京重機にも。今はこうりっぱな先輩をもっているにもかかわらず戦績はおもわしくありません。現在部員数二十名で毎日欠かさず練習しています。また県のレベルが他県に比較して高いといわれていますが、我々はこのレベルの高い熊本県でインターハイ出場の座を握ろうと今は練習に練習を重ねて頑張っています。

私達の監督のことばに「根性をもて」といういたいことばがありますが私達は練習にはもちろん根性をもっていますが、もう一つ「打倒菊池」のことばに根性をかけています。このことばを実現させようと三年、しかしまだ実現することができません。

でもいつかは実現できることを確信しています。今までの成績はおもわしくありませんが我々はハンドボールを通して人間的に必要欠くべからざるものを身につけました。

今後もさらに努力し、不動の栄光に向かってがっちりスクラム組みきょうも練習に励んでいます。

（水俣高校女子ハンドボール部　主将　松田佐和子）

水俣高校（女子）

先輩・後輩のこと

水俣高校・男（熊本）

ハンドボールを正式に始めたのは高校入学直前の事である。先輩達の合宿に参加しきびしい練習に何度か倒れそうな事もあった。手足は傷だらけになりブロンジョンの練習もこの時始めて習った。ブロンジョンの成功が傷の痛みを吹き飛ばしてしまった。そんな時始めて先輩の熱心な指導と親切が痛感された。練習を離れても、この印象はかわらなかった。いつだったか数学の応用問題が解けずに先輩にたずねたことがある。先輩は教科書を差し出し「暗記するまで読め。」という。「簡単なものを解くのはやさしい、しかしそれをわかるのは容易なことではないぞ。」と先輩。私はつくづくと思う。――ハンドボールも基礎的なことをしっかり自らの身体で感じとることだ！。何事もハンドボールと結びつけねばおさまらない僕であった。

私の中の先輩像は新入生達が私を「先輩」と呼ぶ時突然奮いたって私をひきしめおもはゆい気持にさせるのだ。

（水俣高校男子ハンドボール部　主将　皿井　淳）

水俣高校（男子）

止めないでよかった

馬頭高校（栃木）

高校に入学した時、クラブの紹介で、ハンドボールの主将が、「ハンドボールは誰にでも楽しくできるスポーツであると思う。わがクラブは新設されて二年目、多くは語れないが、今年は必らず関東大会に出場したい」と云ったことを覚えています。先輩の強い決意の言葉が、クラブの選択に迷っていた私に入部の決心を与えてくれました。でも新入生の僕らにとって、ほとんど三年生ばかりのクラブ員との練習は厳しく何度も、止めようかと思いました。しかし誰にでもできることは勝つことも難しい、苦しい練習に耐えられなければ勉強だって駄目なんだ、と思い直しては練習に励んできました。おかげで昨年は関東大会へも出場できました。

ハンドボールで強い精神力と体力を養って良い人間になりたいと思います。また私たちの今年のチームは、一年生が主力なので明日への夢も残されています。私はハンドボールをやってよかった、止めないでよかった、頑張ろうと意気込んでいます。

（川上記・写真は卒業生との練習試合の風景です）

馬頭高校

勝利めざして

西陵商高（愛知）

西陵のハンドボールは古く、11人制の時からです。当時西陵ハンドボールクラブと言えば県下でも名高かったが現在は以前より力も少し下降してしまいましたが、偉大な先輩達が残しておいてくれた伝統を今もなお守り続けております。

ところが、11人制の頃の面影は全くなく、いつも試合はいいところまでいくのですが、残念ながら勝ち運に恵まれずとり残されたようです。しかし部員は他校に比べて男子の数が少ないというハンディキャップを背負って毎日ボールが見えなくなるまで無心に練習に打ち込んでおります。厳しい練習に耐えこの不利なハンディを克服し、その上顧問の先生の良き御指導と御尽力により一歩一歩着実に向上してまいりました。部員一同、雨風、暑さ寒さにもめげず、一丸となって「人事を尽して天命を待つ」ということをいつも念頭におき頑張っています。先生と部員、部員と先生というようにみんな一致団結したこの二つの大きな歯車も回転し始め、どんな苦労もみんなで分ち合い又助け合っていく協力面を備え肉体的にも精神的にも熟した部員はやる気満々です。

（名古屋市立西陵商業高校　吉田敏夫）

西陵商業高校

もう一度全国大会へ

上田城南高校（長野）

私達の学校にハンドボール部が結成されて六年になります。

その間に全国大会に一回出場しました。この全国大会の時は私達はまだ高校に入学していませんでしたのでその喜びを感じることが出来ませんでしたが、先輩ののこしたこの戦歴を私達は心に秘めて、グランドにもう一度全国大会出場という夢を託して毎日顧問の先生の大きな声を聞き練習に明ける日々を送っています。しかし、現在私達の悩みは部員が少ないことです。これは、まだ長野県にハンドボールというものが普及していないことが最大の原因であると思います。

でも私達はこんな事情に敗けることなく、クラブのモットーである「和と社会性のある人間になる」、を信念としてハンドボールに接しています。昨年は一点差で破れ全国大会に出場することは出来ませんでしたが、本年はその先輩が流した涙を無駄にせず私達の手で喜びの涙を勝ちとろうと思います。努力、これこそ全国大会への道だと思います。

（主将　満木寿子）

上田城南高校

編集部から

好評をいただいております「学園だより」より充実したものにしていきたいと思っています。

現在はこちらから、各高校に原稿の執筆を依頼して、依頼した高校から寄稿されたものも掲載していますが、毎月依頼した高校全部から寄稿してもらえる訳ではなく、また到着が遅れたりして、編集上支障をきたす場合が少くありません。依頼を受けたなら、至急お送り下さるようお願いします。

連載第33回

ハンドボール球史

全日本総合室内 第2回～第4回

全日本総合室内の第2回大会は東京で開かれる予定で準備が進められたが、体育館事情がわるく会場探しに時日がかさみ、結局は年度ぎりぎりの昭和31年3月10日から神奈川県平塚市・見付台体育館で行われた。

このため東京での室内の公式第1戦はさらに遅れることになり、普及面でかなりのマイナスを生じた。ちなみに東京で初めて室内の公式大会が行われたのは昭和31年11月明大体育館の「早慶明法4大学対抗戦」である。

平塚での第2回大会は男子25チーム、女子4チームが参加したが、室内に対する研究は前年より深まったとはいえ〝未消化〟の印象をぬぐいさることはできなかった。

この年の秋、西ドイツナショナルチームが11人制で来日することに決まっていたことも、7人制（室内）主体化を消極的にさせる一因となり、当時の情勢としては、このムードを責めるわけにはいかないだろう。

男子は2年連続日体大（東京）―大阪ク（大阪）の決勝となったが、日体大が現役学生のスピードを活かして快勝。

女子も日体大（東京）が、1回戦で前年優勝の春日ク丘（大阪）に零封勝ちした余勢で優勝を飾った。

全国大会で同一チームが男女優勝したのは、この時点では史上初めて。後年になって大崎電気（埼玉・第16回全日本総合）、徳山高（山口・第18回国体高校）の二チームがこの偉業を達成することになる。

【第2回全日本総合室内＝昭和31年3月10～13日・平塚市見付台体育館】

▼男子1回戦

平塚ク（神奈川）　不戦勝　全法大（東京）
鳳高ク（大阪）　12―1　全関東学院（神奈川）
全芝浦工大（東京）　20―3　全法政二高（神奈川）
日体大B（東京）　13―6　泉大津ク（大阪）
全兵庫（兵庫）　13―2　全三浦高（神奈川）
全東大（東京）　不戦勝　桜丘会（愛知）
立大（東京）　7―7（抽せん勝）　三春台ク（神奈川）
慶大（東京）　15―3　奈良ク（奈良）
鎌倉学園ク（神奈川）　7―4　全中大（東京）

▽同2回戦

大阪ク（大阪）　33―1　平塚ク
教大（東京）　18―6　鳳高ク
全芝浦工大　21―5　全静岡（静岡）
日体大B　41―0　Jクラブ（神奈川）
全兵庫　棄権　三田ク（東京）
久里浜ク（神奈川）　12―4　全東大
立大　7―6　慶大
日体大A（東京）　23―5　鎌倉学園ク

▽同準々決勝

大阪ク　11―10　教大
日体大B　9―5　全芝浦工大
全兵庫　13―4　久里浜ク
日体大A　18―7　立大

▽同準決勝

大阪ク　10（6―1、4―5）6　日体大B
日体大A　13（4―1、9―4）5　全兵庫

▽同3位決定戦

日体大B　7（4―1、3―3）4　全兵庫

▽決勝

日体大A　8（2―2、6―1）3　大阪ク

優勝メンバー

小野　秀雄
加藤　雅之
小鳥居　安彦
堀　勤
今田　寿一
斉藤　一之
幸田　未弥
柳沢　民彦
浅野　克作
広末　謙昭
竹野　泰一
森　恭夫
森　豊

▼女子1回戦（参加4チーム）

日体大（東京）　6―0　春日丘ク（大阪）
大谷高ク（大阪）　6―4　平塚江南ク（神奈川）

▽同3位決定戦

大谷高ク　6（2―2、4―2）4　平塚江南ク

▽同決勝

日体大　2（2―0、0―1）1　大谷高ク

優勝メンバー

白取　愛玲
田川　博子
原　満喜子
奥山　蟻子
石井　徳枝
桑原　芳子
坂本　良子
渡辺　淳子
斉藤チヨ子
東海林圭子

新進・芝浦、日体の"壁"破る

第3回大会は再び会場を第一回大会の開催地大阪に戻して31年12月に開かれた。

この大会はいわゆる"芝浦工大時大"の幕あけともなるわけで興味深い。

"日体"の壁をなかなかつき破れなかった芝浦工大（東京）がこの年の秋、関東学生で初優勝をとげ、つづく全日本学生王座でも関学（兵庫）を破って"日本一"の座についた。その勢いをこの大会にも持ちこんだわけで4日前に全日本学生王座を掌中にしたメンバーにOB3人を加えた全芝浦工大の意気は"新進"の名にふさわしいものがあった。

予想どおり西日本日体OB（福岡）、全日体大（東京）らを連破して決勝進出、宿敵となった日体大（東京）との優勝争いは、球史に残る激闘となり第2延長にもつれこむ熱戦から劇的な初優勝となった。日体系3チームをなぎ倒しての制覇は両者の対決を宿命的なものにするとともに球界地図を大きくぬりかえることになった。女子は、練習量にまさる日体大（東京）が連覇。なお、男女とも夏の全日本総合の覇者がそろって3位におわったのも興味深いことである。

【第3回全日本総合室内＝昭和31年12月26日〜28日・大阪府立体育会館】

▼男子1回戦

六陵ク（大阪）　22−9　熊本教職員ク（熊本）
大阪歯大（大阪）　15−6　奈良ク（奈良）
兵庫工ク（兵庫）　19−3　千成ク（大阪）
全芝浦工大（東京）　37−0　高津ク（大阪）

▽同2回戦

全関学（兵庫）　16−5　六陵ク
日体大（東京）　9−6　鳳高ク（大阪）
神戸大（兵庫）　20−9　春日丘ク（大阪）
旭桜ク（東京）　24−2　大阪歯大
新生ク（大阪）　15−11　兵庫工ク
全日体大（東京）　24−10　岡崎ク（愛知）
西日本日体OB（福岡）　16−6　高田高（三重）
全芝浦工大　25−3　防衛大（神奈川）

▽同準々決勝

日体大　11−5　全関学
旭桜ク　9−6　神戸大
全日体大　9−6　新生ク
全芝浦工大　13−2　西日本日体OB

▽同準決勝

日体大　20（5−4、15−2）6　旭桜ク
全芝浦大　9（3−0、6−4）4　全日体大

▽同3位決定戦

全日体大　13（8−5、5−4）9　旭桜ク

▽同決勝

全芝浦工大　10（3−4、3−2：1−1、0−0：1−0、2−1）8　日体大

優勝メンバー

今野　邦彦
小泉　倶康
高森　孝一
浜野　邦治
桜井　丈夫
小林　二郎
近藤　金博
中上　達生
稲生　嘉宏
荒川　次雄
山岡　敬二
大石　泰司
富樫　治雄
光武　　徹

▼女子1回戦（2試合）

半田高（愛知）　7−3　春日丘ク（大阪）
全兵庫（兵庫）　不戦勝　大谷ク（大阪）

▽同準決勝

日体大（東京）　6（3−2、3−2）4　半田高
全兵庫　6（2−2、2−2：2−1）5　四日市高（三重）

▽同3位決定戦

半田高　14（9−1、5−2）3　四日市高

▽同決勝

日体大　6（1−0、5−0）0　全兵庫

優勝メンバー

桑原　芳子
坂本　良子
田川　博子
斉藤　チヨ子
渡辺　澄子
馬場　秀子
山川　秀子
清田　昭子
国定　美代子
山崎　多紀子
板谷　巧子
矢野間万里子
渡辺　　巴

女子で半田高が優勝

第4回大会は33年1月5日から名古屋で行われた。

ハンドボールの全日本選手権が新春早々から開かれるのは史上初めて。この大会を正月の恒例スポーツにという声もあったがその慣習も翌年（第5回）までにおわった。

男子は地方勢の代表格全静岡と全宮城がベストフォアに残ったのが注目された。

過去3回のベストフォアはいずれも東京と近畿に限られていたものだが、ようやく全国的に7人制の根がおりたことを示すものであった。

決勝は日体大が前回の雪じょくをとげた。

女子は、32年4月から11人制が全廃され夏の全日本総合とともにこの大会は各チームの"最大目

標〃に発展した。そうした影響のあらわれの一つ実業団の地元・愛知紡（愛知）が、夏の全日本総合制覇についでダブル・クラウンを狙って登場。しかし決勝で後輩の半田高（愛知）に敗れる番狂せとなった。

この大会で、高校現役の優勝は初めて。ベスト・フォアのうち三つを高校で占めたことも特筆してよい。

余談になるが、優勝した半田高の主力が三ケ月後に愛知紡に加わり、同チームの実力を不動のものとすることにつながる。

【第4回全日本総合案内＝昭和33年1月5日〜7日・名古屋市金山体育館】

▼男子1回戦

全静岡（静岡） 15―10 京都パレス（京都）
桜丘会（愛知） 不戦勝 高田ク（三重）
全教大（東京） 11―5 鳳ク（大阪）
中京商（愛知） 16―2 彦根ク（滋賀）
全教大 8―6 楠送会（兵庫）
日体大（東京） 14―8 桜台高（愛知）
全宮城（宮城） 不戦勝 東大（東京）
中京商 9―5 四日市工（三重）

▽同2回戦

全静岡 15―14 教大（東京）
全愛知学芸大（愛知） 21―6 奈良ク（奈良）
全日体大（東京） 11―5 高津ク（大阪）
全芝浦工大（東京） 13―4 桜丘会

▽同準々決勝

全静岡 11―10 全愛知学大
全芝浦工大 6―5 全日体大
日体大 11―6 全教大
全宮城 8―7 中京商

▽同準決勝

全芝浦工大 9（0―2、9―3）5 全静岡
日体大 19（11―4、8―3）7 全宮城

▽同決勝

日体大 8（6―1、6―6）7 全芝浦工大

優勝メンバー

北川 勇喜
渡辺 哲郎
渡辺 慶寿
松田徳之助
東 嘉伸
竹野 泰昭
山野 圭三
小林 進
梅田 幹夫
新井 節男
大西 富男
桑原 勘祐
豊島進太郎
滝口 澄夫

▼女子1回戦（1試合）

都立二商（東京） 記録不明 八尾高（富山）

▽同準々決勝

半田高（愛知） 14―2 都立二商
沼津女高（静岡） 不戦勝 平塚江南ク（神奈川）
愛知紡（愛知） 5―4 栃木女高（栃木）
四日市高（三重） 4―2 日女体短大（東京）

▽同準決勝

半田高 7（5―1、2―1）2 沼津女高
愛知紡 13（6―4、7―0）4 四日市高

▽同決勝

半田高 6（2―1、4―4）5 愛知紡

優勝メンバー

沢田 勝子
本間 徳子
青木 悠子
野崎 準子
竹本 郁子
八谷 悦子
村瀬 道子
山崎 鉦子
中川美知代
磯部 昌子

〔注〕第4回大会は男女とも3位決定戦なし

【次号は第5回大会の記録など】

46年以後の国体開催地が内定

日本体育協会国体常任委員会は6月20日の会議で昭和46年（第26回）以後の国体開催地を次のように内定。

▽昭和46年・和歌山県
▽昭和47年・鹿児島県
▽昭和48年・千葉県
▽昭和49年・茨城県

なお、来年以後の開催地は福井（昭43）長崎（44）岩手（45）とすでに決まっている。

実業団連盟だより

全日本総合に住友化学ら四チーム

全日本実業団ハンドボール連盟（会長・古賀和佐雄氏）は、八月二十二日から五日間、福井県大飯郡高浜町で開かれる第十九回全日本総合選手権大会に出場する実連推薦チームに住友化学菊本（愛媛）、宗形製作所（大阪）、常盤工業（岐阜）、本田技研（三重）の四チームを決めた。

推薦基準はことし二月の第七回全日本実業団選手権大会の上位四チーム（大崎電気、住友化学菊本、宗形製作所、常盤工業）とし、このうち大崎電気は日本協会推薦チームとなるのでこれを除外した。したがって残り一チームについては、実業団選手権大会の戦績を検討した結果、本田技研を推薦することになった。

実業団選手権大会の準々決勝で敗れた四チーム（本田技研〔＋36〕日進商会〔＋1〕、日鋼川崎、〔―6〕日鋼福山〔＋12〕）から選考したものです。（〔 〕内は準々決勝までの得失点差）最上位の本田技研を推薦。

地方協会告知板

東京都協会登録チームは130

東京都協会は5月31日に42年度の登録を締め切った。この結果、42年度は別表のように130チームとなり、前年比123%となった。とくに高体連の伸び率が著しく、全体としては16チームの増となった。

◇一般男子（26チーム）

蜂山会（三井征二）、安田生命（田口敬蔵）、◎宮原電気（宮原良治）、全慶応（増田一郎）、三菱重工水島東京工場（神山邦夫）、◎TCU（小山隆弘）、◎三景KK（小風新太郎）、五商ク（田中潤一）◎全理科大（早川道敏）、◎陵東ク（田野倉義夫）、桂友ク（鴨門義夫）、◎LBC（河内鋭雄）、桑朋会（松本明正）、◎学連チーム（安藤純光）、千代田印刷機製造（古賀健一郎）、早大学院ク（浅野道夫）、◎全日体大（荒川清美）、芝浦ク（住広尚三）、若木ク（村田稔）、城南ク（田井裕）、大崎電気（辻本正義）、◎深川会（山野圭三）、全立大（勝繁夫）、◎滴水会東京（中沢重夫）、◎大成ク（奥本義昭）、明星ク（高橋英次）

◇一般女子（5チーム）

◎東京ク（今野邦彦）、東京重機（久津名勲治）、大崎電気（辻本正義）、レナウン工業（塩川安賢）三菱鉛筆（猪狩武春）

◇教員（1チーム）

桜友会（田中稔）

◇大学男子（17チーム）

立大（勝繁夫）、慶大（増田一郎）、早大（萩原一次）、日大（吉田清）、明星大（小原裕）、東京理科大（滝沢正彦）、武蔵工大（難波俊夫）、中大（田中秀夫）、法大（安藤純光）、東京教育大（大西武）、上智大（塩月楯夫）、日体大（荒川清美）、明大（小林直紀）、東大（松島静雄）、芝浦工大（中沢重夫）、東京学芸大（矢野久英）、国士館大（平間光雄）

◇大学女子（5チーム）

日女体大（杉本功介）、国士館大（平間光雄）、東京学芸大（矢野久英）、東京女体大（和泉貞男）・日体大（荒川清美）

◇高校男子（48チーム）

都城南（若林義孝）、芝浦工大工（長田虎磨朗）、都羽田工（小泉）、東京実業（田中保弘）、都世田谷工（徳永陸繁）、都明正（崎山朝儀）、都玉川（富田隆祐）、東京学芸大付（田島穆）、武蔵工大付（中野偉夫）、都一商（増井俊明）、都広尾（南一好）、都鷺宮（杉浦仁）、都四谷商（郷原義久）、東亜商（片田靖）、都杉並工（瀬川勝夫）、早大高等学院（萩原一次）、城西（本堂元規）、都赤羽商（大門正男）、都池袋商（奥田恒夫）、帝京商工（古田）、都両国（永井勝雄）、都墨田川（松本重雄）、都江東商（中村正義）、都三商（伊藤政貞）、都江東工（本間俊三郎）、都江戸川（小泉功）、都小岩（上川高央）、都白鷗（宮下善郎）都北多摩（島田正士）、関東（和田知雄）、都二商（小沢重夫）、都立府中（久田睦）、都農業（由良和雄）、都府中工（山口久夫）、明星（高橋英次）、中大付（川上整司）、拓大一（鈴木亮一）、錦城（舛巴熙）、都神代（大塚文雄）、都国立（稲垣雅彦）、都五商（岡前義春）、工学院大（山下広人）、都秋川（佐野和夫）、都久留米（渡辺慶寿）、科学技術学園工（山口毅睦雄）、都葛西工（首藤田侃）、都練馬（鈴木満令）

◇高校女子（28チーム）

都園芸（小柴実）、都池袋商（奥田恒雄）、都玉川（大内一美）、佼成学園（高嶋幸雄）、東京学芸大付（田島穆）、都江戸川（小泉功）、都鷺宮、都四谷商（郷原義久）、都桜水商（坂理泰幸）、菊華（内倉正弘）、都井草（天野敏雄）、都久留米（渡辺慶寿）、都赤羽商（大門正男）、都白鷗（宮下善郎）、都両国（永井勝雄）、都墨田川（松本重雄）、都江東商（那須貞美）、都化工（栗山繁）、都小岩（城津寛二郎）、都二商（新村正雄）、都北多摩（島田正士）、都府中（大野浩）、都小平（岡村千春）、都神代（大塚文雄）、都五商（岡前義春）、白梅学園（杉山年子）、都志村（伊藤せつ子）、都練馬（野村正隆）

登録チーム

年度別 ＼ 種別	一般男子	一般女子	教員	大学男子	大学女子	高校男子	高校女子	計
40年度	14	4	2	16	3	35	23	97
41年度	20	5	2	17	5	39	26	114
42年度	26	5	1	17	5	48	28	130

注＝42年度は前年比の123％（16チーム増）

千葉会長に安田氏

千葉協会では山本前会長の勇退にともなう後任会長の人選をすすめていたが、このほど新会長に安田敬一氏（千葉扇屋デパート社長）を決め、発表した。

滋賀は白崎氏

滋賀県協会はこのほど会長に白崎重幸氏（三菱樹脂長浜工場長）を決めた。

徳島協会、事務局移転

徳島協会事務局は5月20日から左記に移転した。なお事務局長は前田誠之助氏。

徳島市田宮町西野七九九・県立城北高校。電＝徳島③八一〇五。

長野協会も

長野協会事務局は左記に変更。

長野県小諸市字上野乙三二三の二・県立小諸商業高校。

関東協会行事日程

関東協会では昭和42年度の行事日程を次のように決めた。

▽第19回全日本総合関東予選・7月9日（浦和）▽第13回関東高校選手権・7月22日～25日（千葉）▽第12回関東選手権兼国体予選・9月8日～10日（水海道）▽第22回国体ハンドボール競技・10月22日～27日（浦和）▽第2回関東実業団選手権（未定）

沖縄、総合選手権開く

沖縄協会では今年度から全沖縄総合選手権大会を開くことにきめ9月24日・コザ高校で行う。

なお、沖縄協会ではすでに高校選手権、一般選手権を行っていた。

各地の記録

投稿歓迎

熊本教員ク勝つ

第3回九州選手権は5月13・14日熊本・済々黌高球技場に九州5県6チーム（男子）が参加してトーナメントで行われ、決勝は熊本－大分の教員ク同志の対戦となったが、熊本が2連勝を狙う大分の反撃をふり切って2年ぶり2回目の優勝をとげた。

▽1回戦（2試合）

福岡教員（福岡） 17（10－4、7－9）13 熊本ドンキーズ（熊本）

佐世保ク（長崎） 36（22－6、14－8）14 鹿屋海上自衛隊（鹿児島）

▽準決勝

大分教員（大分） 23（14－8、9－12）20 福岡教員

熊本教員（熊本） 33（17－9、16－12）21 佐世保ク

▽決勝

熊本教員 25（15－14、10－8）22 大分教員

得	【熊本】		【大分】	得
0	島田	GK	柿崎	0
3	津田	FP	中釜	7
8	元田		諫山	2
0	谷脇		佐藤	7
8	沢田		福田	0
0	松田		清水	0
4	緒方		湯浅	6
0	中津海		友永	0
2	平井		吉良	0
0	竹原		安達	0
0	野田	（主審 井上）		
25	（5）	7MT	（5）	22

田村紡、愛知紡を連破

男子も常盤工業3連勝

第3回東海実業団選手権は5月14、28日の両日名古屋・愛知県体育館に東海4県から男子16、女子4チームが参加して開かれた。

男子は常盤工業（岐阜）が安定した攻守で3連勝、女子は3年連続して田村紡（三重）－愛知紡（愛知）の優勝争いとなったが、地力にまさる田村紡が3連勝した。

▽男子予選トーナメント各組決勝

常盤工業（岐阜） 32（14－9、18－0）9 大協石油（三重）

タヨシ産業（愛知） 28（17－9、11－6）15 三菱重工（愛知）

東海製鉄A（愛知） 24（12－10、12－8）18 三菱油化（三重）

本田技研（三重） 35（16－7、19－7）14 中部電力（愛知）

▽11・12位決定戦

日本碍子（愛知） 27－25 ブラザー工業（愛知）

▽9・10位決定戦

東海製鉄B（愛知） 31－10 光文堂（愛知）

▽7・8位決定戦

大協石油（三重） 22－18 中部電力（愛知）

▽5・6位決定戦

三菱油化 32（20－11、12－10）21 三菱重工

▽決勝トーナメント1回戦

常盤工業 26（10－4、16－2）6 タヨシ産業

本田技研 23（14－11、9－4）15 東海製鉄A

▽3位決定戦

東海製鉄A 29（14－8、15－10）18 タヨシ産業

▽決勝

常盤工業 17（7－5、10－5）10 本田技研

得	【常盤】		【本田】	得
0	渡辺	GK	森瀬	0
0	森	GK	小林	0
0	中島	FP	池田	0
9	高橋		笠松	0
0	西洞		花井	0
4	桃井		小川	0
3	吉金		松岡	3
0	鳥村		大下	5
1	大野		佐藤	1
0	佐藤	（主審 横井）	星野	0
0	伸藤		水谷	1
17	（0）	7MT	（2）	10

〔注〕男子の試合法は参加16チームを4組に分けて予選トーナメントを行い各組1～4位までを決め3位までによる同順位者で決勝トーナメント、5～8位トーナメント、9～12位トーナメントを行う。この結果1～12位が決まり、13位として予選各組の4位者が並ぶ。

▽女子（リーグ）

田村紡A（三重） 25－9 田村紡B（三重）

愛知紡（愛知） 22－5 ブラザー工業（愛知）

田村紡B 14－5 ブラザー工業

田村紡A 26－1 ブラザー工業

愛知紡 17－10 田村紡B

田村紡A 20（10－5、10－5）10 愛知紡

得	【田村】		【愛紡】	得
0	渡辺美	GK	尾崎	0
		GK	中下	0
4	種村	FP	小林	1
2	水谷		前田	1
0	渡辺好		五十嵐	2
5	小林		小野	1
2	清水		関口	2
3	長谷川		黒木	1
4	甲村	（主審 栗脇）	藤池	2
			岩崎	0
20	（3）	7MT	（3）	10

○…男子連勝の常盤は攻守のバランスがよくとれ全4戦危なげない試合ぶりをみせた。順当な結果といえる。このほか本田、東海製鉄、タヨシ産業、三菱油化のチーム力にまとまりがみえ、全般にレベルアップして、前2回をはるかにしのぐ内容を示したのはうれしい。

女子は相変らず田村紡のスピードが群を抜いたが、愛知紡の立ちなおりも注目される。全国の上位戦に今年は返り咲けそうだ。

新登場のブラザー工業は体力で二強におくれをとったが、素質じゅうぶんで今後の成長が楽しみ。（田中）

新進三景が準優勝

▼第20回都民体育大会ハンドボール競技（5月・6月・東京駒沢）

▽男子準決勝

大崎電気（品川区） 26（15－4、11－2）6 若木ク（渋谷区）

三景（調布市） 16（8－10、8－5）15 千代田印刷機製造（千代田）

▽同3位決定戦

千代田印刷機製造 27－8 若木ク

▽同決勝

大崎電気 36（22－5、14－4）9 三景

得	【調布】		【品川】	得
0	小野	GK	福本	0
		GK	下里	0
1	竹村	FP	北村	4
2	尾形		井上	7
2	榊		西村	7
2	伊藤		金田	2
2	外間		近藤	10
0	磯村		竹野	4
0	江名		片山	2
0	田村		加藤	0
9	（0）	7MT	（1）	36

▽女子（リーグ）

大崎電気（大田区） 14－5 大崎OG会（練馬区）

三菱鉛筆（品川区） 5－4 東京重機（調布市）

大崎OG会 不戦勝 白鷗ク（台東区）

大崎電気 10－4 三菱鉛筆

大崎OG会 8－3 東京重機

大崎電気 15－1 白鷗ク

三菱鉛筆 10－4 大崎OG会

東京重機 27－0 白鷗ク

大崎電気 23－1 白鷗ク

大崎電気 18－5 東京重機

【順位】①大崎電気②三菱鉛筆③大崎OG会④東京重機⑤白鷗ク

古川工、延長で勝つ

▼宮城県高校総合体育大会ハンドボール競技（5月・仙台）

▽男子準決勝

仙台一 7－4 塩釜

古川工 17－11 祇園寺

▽同決勝

古川工 13（3－4、7－6……1－1、2－1）12 仙台一

▽同女子決勝

涌谷 19（10－1、9－3）4 古川女

秋田和洋、順当の優勝

▼第13回秋田県高校総合体育大会ハンドボール競技（6月・秋田）

▽男子準決勝

湯沢 29－3 横手

秋田南 11－7 大曲

▽同決勝

湯沢 15（5－4、10－1）5 秋田南

▽女子リーグ

秋田和洋 19－2 大曲農

六郷 12－6 大曲

秋田和洋 16－2 六郷

大曲 6－5 大曲農

秋田和洋 14－2 大曲

六郷 11－5 大曲農

【順位】①秋田和洋3戦全勝②六郷2勝1敗③大曲1勝2敗④大曲農3敗

花巻南、今年も好調

▼第19回岩手県高校総合体育大会ハンドボール競技（6月・盛岡）

▽男子一回戦

岩手 10－9 花巻農

盛岡一 12－11 花巻北

▽同準決勝

盛岡商 13－8 岩手

洋岡一 18－4 盛岡四

▽同決勝

盛岡一 14（7－6、7－5）11 盛岡商

△女子一回戦

岩手女 17－0 谷村学院

花巻南 13－4 大東

花巻農 12－4 一関修紅

盛岡二 10－4 黒沢尻南

△同準決勝

花巻南 9－2 岩手女

花巻農 17－3 盛岡・二

▽同決勝

花巻南 8（2－0、6－3）3 花巻農

男子は洛星・女子は明徳商が優勝

▼第20回京都府高校総合体育大会（於平安高校・42年5月20・21日）

▼男子上級の部

▽準々決勝

洛星 17－12 乙訓

伏見工 25－9 田辺

嵯峨野 8－7 桃山

日吉丘 9－8 城南

▽準決勝

洛星 10（6－3、4－3）6 伏見工

嵯峨野 22（12－1、10－2）3 日吉丘

▽決勝

洛星 19（9－7、10－6）13 嵯峨野

▼男子下級の部

▽準決勝

大谷 18－5 洛東

洛星 17－8 堀川

▽決勝

洛星 7（3－3、4－2）5 大谷

▼女子の部

▽準々決勝

明徳商 13－3 鴨沂

嵯峨野 5－3 洛東

京女 11－4 桃山

精華 11－0 華頂

▽準決勝

明徳商 10（7－1、3－2）3 嵯峨野

精華 8（3－0、5－2）2 京女

▽決勝

明徳商 7（3－1、4－5）6 精華

男女とも麻生高に栄冠

▼関東高校選手権大会茨城県予選大会兼高校春季大会（於勝田工高・42年5月27・28日）

▽男子準々決勝

麻生高 15－8 土浦工高

竜ヶ崎一高 14－10 水戸一高

土浦一高 15－9 筑波高

石岡一高 15－6 常北高

▽男子準決勝

竜ヶ崎一高 15（8－3、7－7）10 土浦一高

麻生高 15（3－2、12－2）4 石岡一高

▽男子決勝

麻生高 16（9－9、7－4）13 竜ヶ崎一高

▽女子準々決勝

水戸二高 12－6 八郷高

麻生高 22－4 太田二高

笠間高 10－2 常北高

石岡二高 5－4 水海道二高

▽女子準決勝

石岡二高 7（3－4、4－1）5 笠間高

麻生高 11（4－4、7－2）6 水戸二高

▽女子決勝

麻生高 7（2－4、5－2）6 石岡二高

以上の結果、男子は麻生高、竜ヶ崎一高、土浦一高、石岡一高が女子は麻生高、石岡二高、水戸二高、笠間高が関東大会に出場。

熊本教員が連勝

▼第2回熊本県一般選手権（5月・熊本）＝男子リーグのみ

熊本教員 23（9－8、14－11）19 熊本ドンキーズ

熊本教員 21（9－8、12－10）18 熊城会

熊本ドンキーズ 24（14－11、10－10）21 熊城会

【順位】①熊本教員②熊本ドンキーズ③熊城会

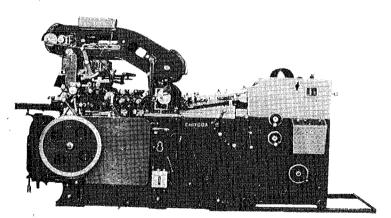
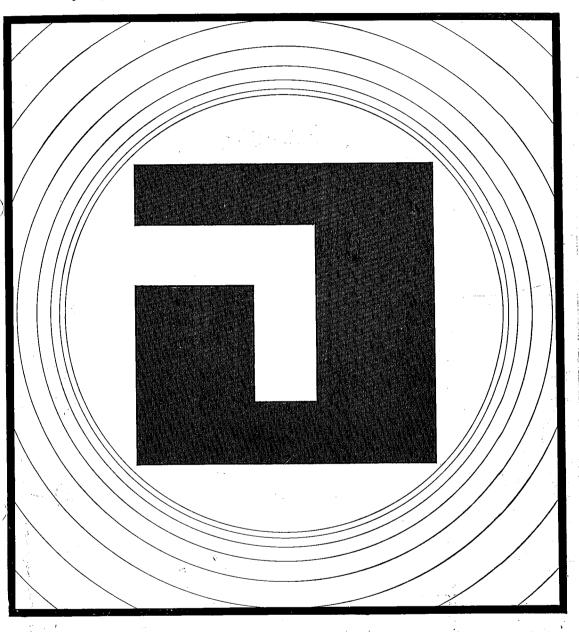
編集後記

今号は決算、予算専門委員会がほぼ決りかけた時点で、原稿の締切りになってしまった。

インカレも迫り、インターハイも予選たけなわといったところ、すぐに総合と夏のシーズンの開幕を迎えるばかりになっている。

16－17頁には、シュートモーションの特集にした。これは昨年の暮に滋賀県立高島高の中川さんから寄せられた要望に答えたものである。はなはだ遅くなったが、よりよいものをといろいろ検討していた結果がこうなってしまった。時間はかかるかもしれないが、できるだけ要望に答えていきたいと思っている。希望、意見どしどし寄せてほしいと考えている。これまで残念ながらあまり、意見はよせられていない。

別面のとおり、新年度の専門委員が決ったが、本誌の発行を主事業とする本部の編集委員会は杉山茂（NHK運動部）、古賀健一郎（千代田印刷機製造）、藤本強で構成し、杉山・藤本が主に編集を担当し、古賀は広告を主に担当することにした。

なお地方ブロックから推せんの編集委員は現在のところ小松進（関東）、川崎秀雄（四国）の2氏が決定している（T・S・F・）

世界に誇るこのマーク

あなたの工場を合理化する
工業用ミシン．プレス．縫製附帯設備．電子機器
あなたのご家庭を設計する
家庭用ミシン．編機．電気掃除機．冷蔵庫

東京重機工業株式会社

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第四十四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十二年六月二十五日印刷
昭和四十二年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 鈴木達雄
定価百五十円